

2022 Chiba Architecture Graduate's Prize

Yuto Makino Yukiko
 Ken Maki Haruna Daiki
 Takumi An Mayuko
 Motosharu Yuta 3.12sat
 Ryuya Chiharu 3.13sun
 Kanata Kota Raki

第34回千葉県建築学生賞 2022

千葉県建築学生賞協議会



AEON HALL
 イオンモール幕張新都心グランドモール3F
 2022年
 3月12日(土) - 3月13日(日)

参加大学

- 千葉職業能力開発短期大学校
- 日本大学 短期大学部 建築・生活デザイン学科
- 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
- 日本大学 生産工学部 建築工学科
- 東京理科大学 理工学部 建築学科
- 東京理科大学 未来科学部 デザイン科学科
- 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科
- 千葉工業大学 創造工学部 建築学科
- 千葉工業大学 工学部 総合工学科 建築コース
- 千葉工業大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース

参加高校

- 千葉県立京葉工業高等学校 建設科
- 千葉県立市川工業高等学校 建築科
- 千葉県立東総工業高等学校 建設科

第34回 千葉県建築学生賞

通り集まる団地

高洲三丁目団地の再生

今村元春…千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科

石積みの道標

清水杏…日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科

多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間

吉田千春…千葉工業大学 / 創造工学部 / デザイン科学科

仙台平野の屋敷林イグネのこれから

木と暮らしの関係を可視化する既存の活用

竹村勇那…千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 建築学コース

新たな「緑」をつくる立体広場

思い思いに過ごせるサードプレイスを目指して

横山拓海…東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

牡蠣と竹と生きる島

循環型牡蠣養殖施設の提案

坂倉康太…千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 都市環境システムコース

可変的な避難所の提案

小松龍矢…千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科

閉鎖から解放へ

十余二小学校建て替えの提案

兵藤翼徳…千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科

谷に繰り出す

小林真子…日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科

第20次卸売市場整備計画

淀橋市場の整備計画を5年ごとに見直す設計手法の提案

小山大輝…東京理科大学 / 理工学部 / 建築学科

WWW.H2O.com -水の博物館-

Wild Water Works.H2O.creation of mutuality

福田晴菜…日本大学 / 短期大学部 / 建築・生活デザイン学科

地域に根付く減災橋

市原優太…千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 都市環境システムコース

都市を耕す

今日における地縁的農業コミュニティの形成

軽部要人…千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科

神楽の降下橋

峡谷で舞う高千穂夜神楽

谷口真寛…日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科

策ス切断、拓ク街

都市計画道路を契機に現れた空間活用について

山田光輝…東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

無意識の変化

新たな地域ケアの在り方

佐藤有希子…東京理科大学 / 理工学部 / 建築学科

水紡

水を媒介とする生業風景の再生

比留間隼…千葉大学 / 工学部 / 総合工学科建築学コース

えるば

大人は子どもにかえる場 子どもはチカラを得る場

荒木満由子…千葉工業大学 / 創造工学部 / デザイン科学科

盛る新橋“郷山”

太田優人…日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科



開催日時・場所

2022 **3.12**^{SAT} - **3.13**^{SUN}

12日 10:00~17:00(10:00~公開審査/17:30~表彰式)

13日 10:00~15:00(作品展示)

イオンモール幕張新都心 グランドモール3F「イオンホール」

所在地…千葉県千葉市美浜区豊砂1-1

<https://makuharishintoshin-aeonmall.com/>

目次

03	開催の報告と挨拶
05	審査総評
06	特別審査員コメント
07	大学作品
45	高校作品
47	審査経過
51	なの花会 レビュー
53	市民アンケート集計結果
55	「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献
57	審査員・特別審査員
61	協賛
62	主催者団体

開催の報告と挨拶

飯沼 竹一 (いぬまたけいち)
千葉県建築学生賞協議会 会長



今回の審査でも例年通り最優秀、優秀、特別賞を選出し、これらの中から3作品を選び、公益社団法人日本建築家協会(JIA)主催「全国学生卒業設計コンクール」へ千葉県代表として送り出しました。続いてJASCA賞、なの花賞、特別審査委員賞の各賞を選出しました。この2年間はコロナ感染症対策の対応から中止していた市民参加ですが、専門家以外の目線で展示作品を評価、アンケートに答えていただき「市民賞」を選出しました。

更に、嬉しい報告を加えさせていただきます。この千葉県建築学生賞は、2022年日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞しました。これは前途した丁寧で透明性のある審査、出展学生OBの運営参加や市民を巻き込んだボランティア活動が長年継続して作り上げてきた建築教育的イベントとして大きく評価されたものです。34年の長きにわたりこのボランティア活動を支えてこられた諸先輩方をはじめ、全ての関係者の皆様にお祝い申し上げます。出展学生の皆さんは、各大学から推薦されこの名誉ある建築学生賞に出展できたことに誇りと自信を持って次のステージに進んでください。

近年急激に広がる化石燃料からの脱却や行き過ぎた資本主義、AIやロボット、仮想空間、そして春先から勃発したロシアによるウクライナへの軍事侵攻。コロナウイルスのパンデミックも含めて、これまでの常識や考えを一変するような現象、出来事が次々と起こり、社会や世界が大きく変わる時期に来ています。このような時代の変動の中、出展学生の皆さんが、大学での集大成となるこの卒業設計を糧としてこれらの社会にどのように答えを導き出し活躍していくのかを期待を込めて見守りたいと思います。

そして、継続こそが学生へのエールだと認識しています。応援して頂いております皆様方にはこれからもご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

千葉県建築学生賞協議会
第34回 会長 飯沼 竹一



継続こそがエールになる

第 34回千葉県建築学生賞は、2022年3月12日、13日にイオンモール幕張新都心・イオンホールで審査、講評、展示開催を行いました。コロナ禍が3年目になる中で、大学生19作品、高校生3作品が集まりました。有難いことに今回は3年ぶりに入場制限をしつつも一般市民の方の作品見学と表彰式が実現できました。

この34回も盛会のうち無事終えることができたことを主催各団体、後援の団体企業、協賛の企業の皆様、そして協議会メンバーの皆様にご心から感謝申し上げます。

さて、千葉県内には、建築設計にかかわる組織として4つの建築関連団体があります。各団体は、建築設計を通じて広く社会に貢献するという趣意で、共通の価値観をもって活動しており、互いの協調により建築界ひいては地域文化の活性化に一層寄与することを目指しています。千葉県建築学生賞は、こうした趣旨の一環として1988年に発足し、今年度で34回目を

迎えました。この賞は、県内に建築系学科を有する大学各位との連携のもと、優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生にエールを送るという活動を通じ、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的としています。

審査においては、出展者の学生が設計意図を適切に表現し、討議により作品の理解を深めるため、更には審査の透明性を確保するために、第21回から“公開審査”を実施しています。審査には主催4団体から選任された審査委員のほか、“多様な価値観”への対応から、構造設計の視点を採り入れるためJSCA千葉から、加えて、本賞の「歴代出展者の会」(通称：なの花会)からも選任されています。32回からはコロナ禍での対応としてWeb配信による公開審査を併用し、ライブとアーカイブで視聴できる体制を作り上げてきました。また国際的な知見に接する機会としてイタリアの建築家アントニオ・エスポジト氏にWeb参加していただき審査会を盛り上げていただきました。





審査総評

河原 泰 (かわはら ゆたか)
千葉県建築学生賞協議会 審査委員長

建築が救う未来

2021年度は、新型コロナウイルスの影響で1年延期となっていたオリンピックが無観客で開催された年度として、またロシアがウクライナに侵攻を始めた年度として世界の人々の記憶に残るであろう。地球温暖化がますます進行する中で、多様性の尊重が提唱され、あらゆることに持続可能性が問われている状況にある。

この世の中で学生は何を考えたのであろうか。外出や対面コミュニケーションが制限され、おそらく孤独に考えを巡らせたのであろうと推測される。だからこそ、ステレオタイプではない独創的なアイデアも生まれるのではないかと思った。審査前は、閉塞感と混乱が渦巻く社会に、明るい希望が見える提案があれば良いと期待していた。

審査を終えた今、結果として世界を揺るがすような画期的なアイデアは見られなかった。しかし、問題意識や疑問点に対して、自らの素直な考えを提案した作品は例年になく多かったと思う。

最優秀の「無意識の変化」のプレゼンテーションは未熟であった。しかし、密集住宅地の中で使われていない敷地境界沿いの空間を活用すれば、もっと良い世の中になると素直に提案している。自己の権利やプライバシーに固執することなく、みんなで仲良く暮らそうよと言っている。敷地境界は守るべきものとして刷り込まれている固定観念のブレークスルーである。コーポラティブな手法を使えば実現できるアイデアかもしれない。敷地境界を国境に置き換えれば、戦争をなくせるのではないかと思った。

欲にまみれず、邪念をもたないで、素直に良い世の中にしたと思って建築を提案することが、結果として持続可能な社会を創ることにつながるのかもしれない。これからの担う学生達には、2021年度に考えた素直な気持ちをいつまでも忘れずに、建築によって未来を救ってほしいと願っている。

千葉県建築学生賞協議会
第34回 審査委員長 河原 泰



A NEW TASK FOR ARCHITECTURE

Arch. Antonio Esposito

I am grateful and glad to be the foreign member for the third time in this jury for this special and important prize. So many thanks to everyone has organized, to each member of the committee of the Chiba Award 2022. But mainly I need to congratulate each student because of a so high quality level of their works. We can reasonably expect a very successful future as professionals for all of them. Best wishes!

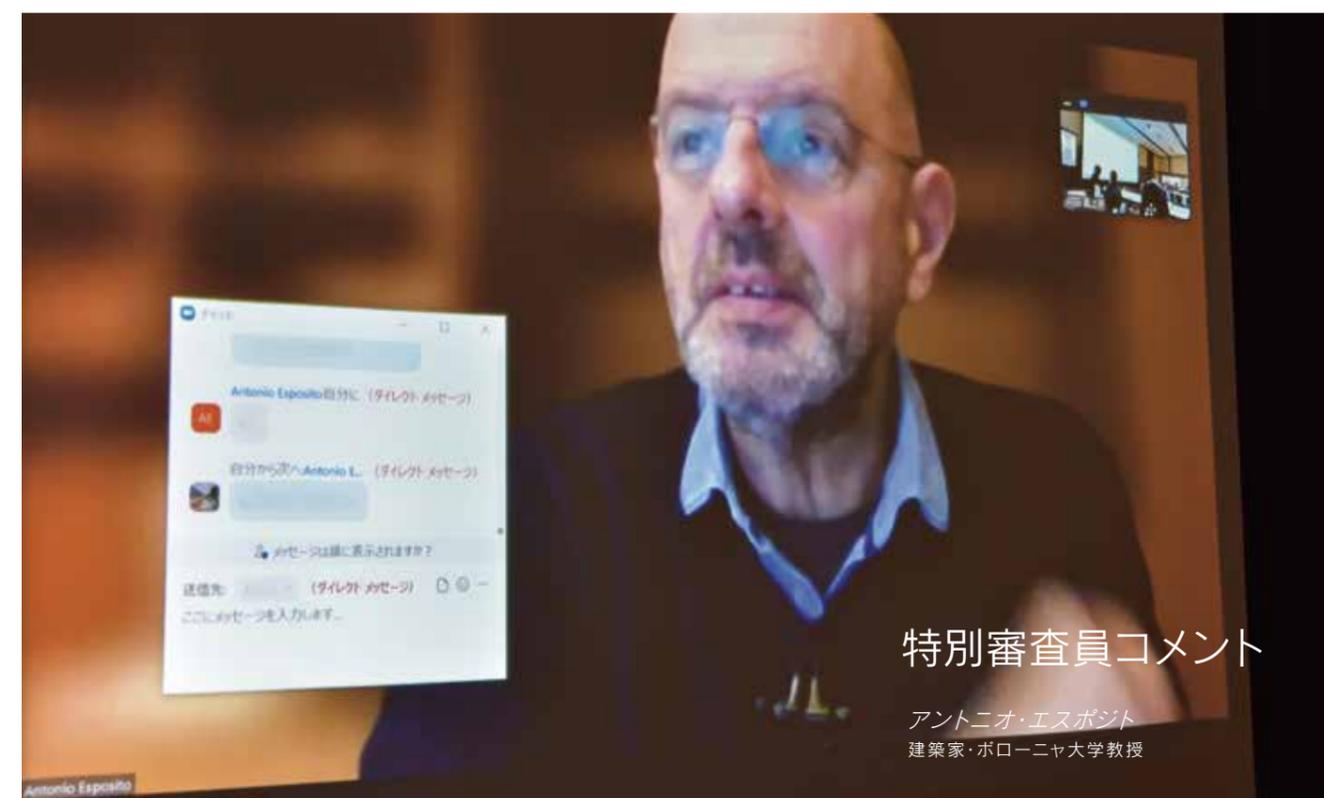
The issues that the projects have addressed, testify that, all over the world, is taking place a change of cultural paradigm that affects the discipline of architectural and urban design. The sensitivity of architectural schools around the delicate relationship between Man and Environment has changed a lot. This bodes well for a not too distant future in which architecture will be thought of in terms of mitigating the phenomena of uncontrolled consumption of resources that human activity produced after World War II.

Almost all the projects consider, with a suitable feeling, some important aspects of the contemporary life that my generation didn't consider as well as the latter: environmental disasters, climate changing, sustainability, circular economy, landscape, etc. All competitors have achieved it not

only deeply feeling but also with very high quality. They rediscover the delicate balances of tradition without renouncing research on form, without taking refuge in a comfortable passatisms. History is interpreted as an ever-changing world of references, not as a cozy shelter for moralists.

Some of them approach the problem of the control and refurbishment of the urban landscape in the most strident knots of the messy city. Others try to define how it's possible re-think the identity of the traditional culture and spirituality. Still others approach several sides of ecological feeling from different point of view: a stone and wood buildings for facilities for slow travellers; how to save igune economy villages; a village of traditional farming of paper; an ecological oyster farming.

Among this high quality of thought and design, it was not so easy to select only a few projects. At least I have chosen some of them that - it seems to me - show us to combine very well the consciousness of the weakness of the contemporary world with good skills in manage the architectural form.



特別審査員コメント

アントニオ・エスポジト
建築家・ポローニャ大学教授

アントニオ・エスポジト先生からのコメント(訳文)をP.60に掲載しています。



How many people do we interact with and how many choices are we aware of? When we are crippled in any way, we keep social stimuli away from ourselves or others, creating the assumption that we have no choice. Therefore, I propose a new care space that removes their unconscious beliefs by scattering opportunities to enrich their minds as an extension of their daily lives. This design defines a care space as a place where not only physical care is provided, but also where people can remove the haze from their minds and live richly as "one person". The care space is not a one-way relationship between "care givers" and "care receivers," but a place where people can trust each other.



無意識の変化 新たな地域ケアの在り方

2022 最優秀賞 JIA 出展作品

佐藤有希子 東京理科大学 / 理工学部 / 建築学科

私達はどれだけの人と関わりあい、どれだけ選択肢に気付いているだろうか?何か心に不自由がある時、私たちは自らもしくは他者から社会的刺激を遠ざけ、自分には選択肢がないという思い込みが生まれる。そこで、日常の延長に心を豊かにするきっかけを散りばめることで、彼らが無意識に感じていた思い込みを取り除く、新たなケア空間を提案する。本設計では、身体的ケアだけでなく、心のもやを取り除き、「1人の人間」として豊かに生きていくことが出来る場所をケア空間と定義する。そして、ケアする/されるように一方的な関係ではなく、お互いを信頼しあうことで成立する居場所を築くことで、様々な場所から弾き出された人々の受け皿となる。



Yukiko

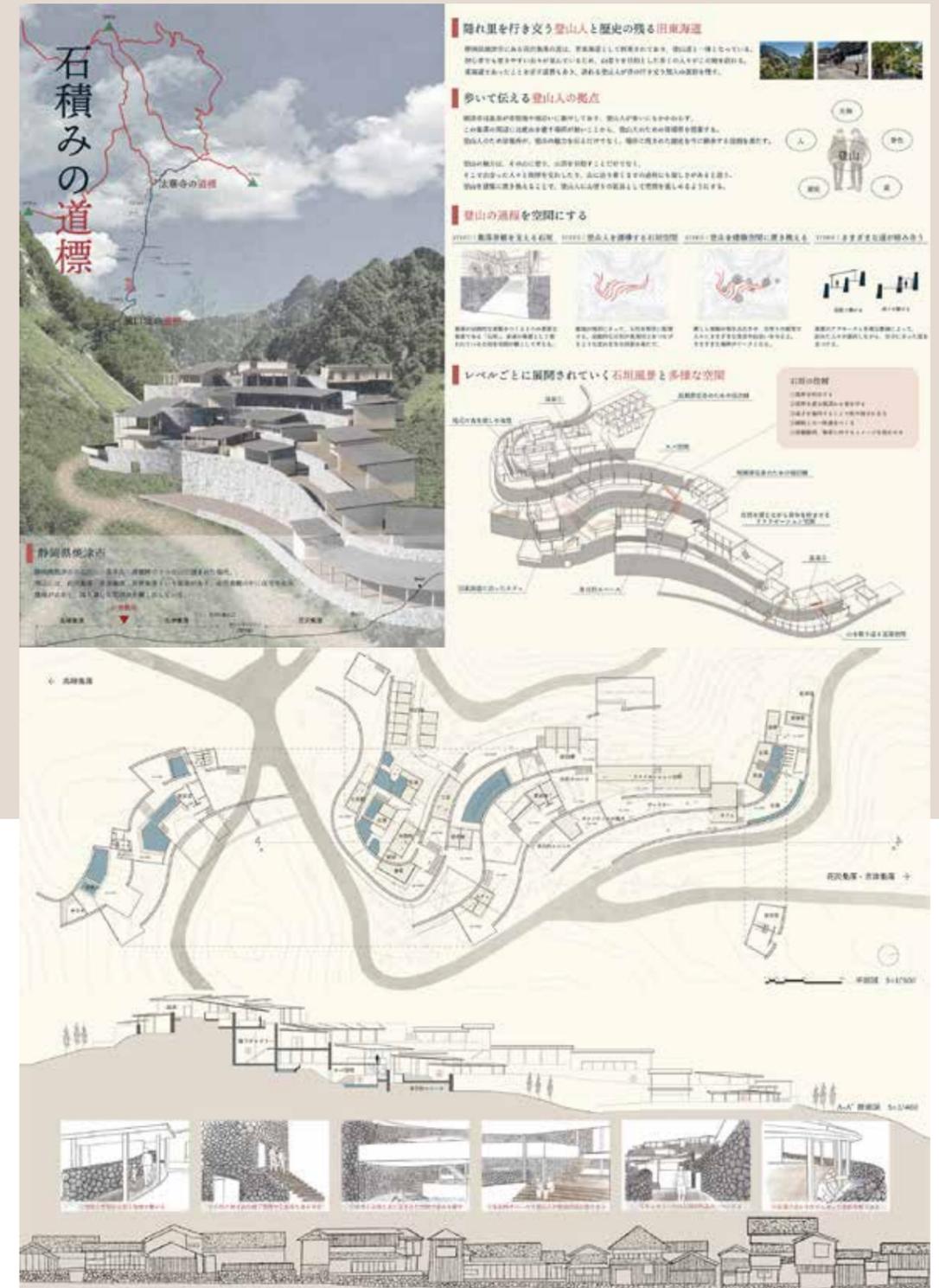
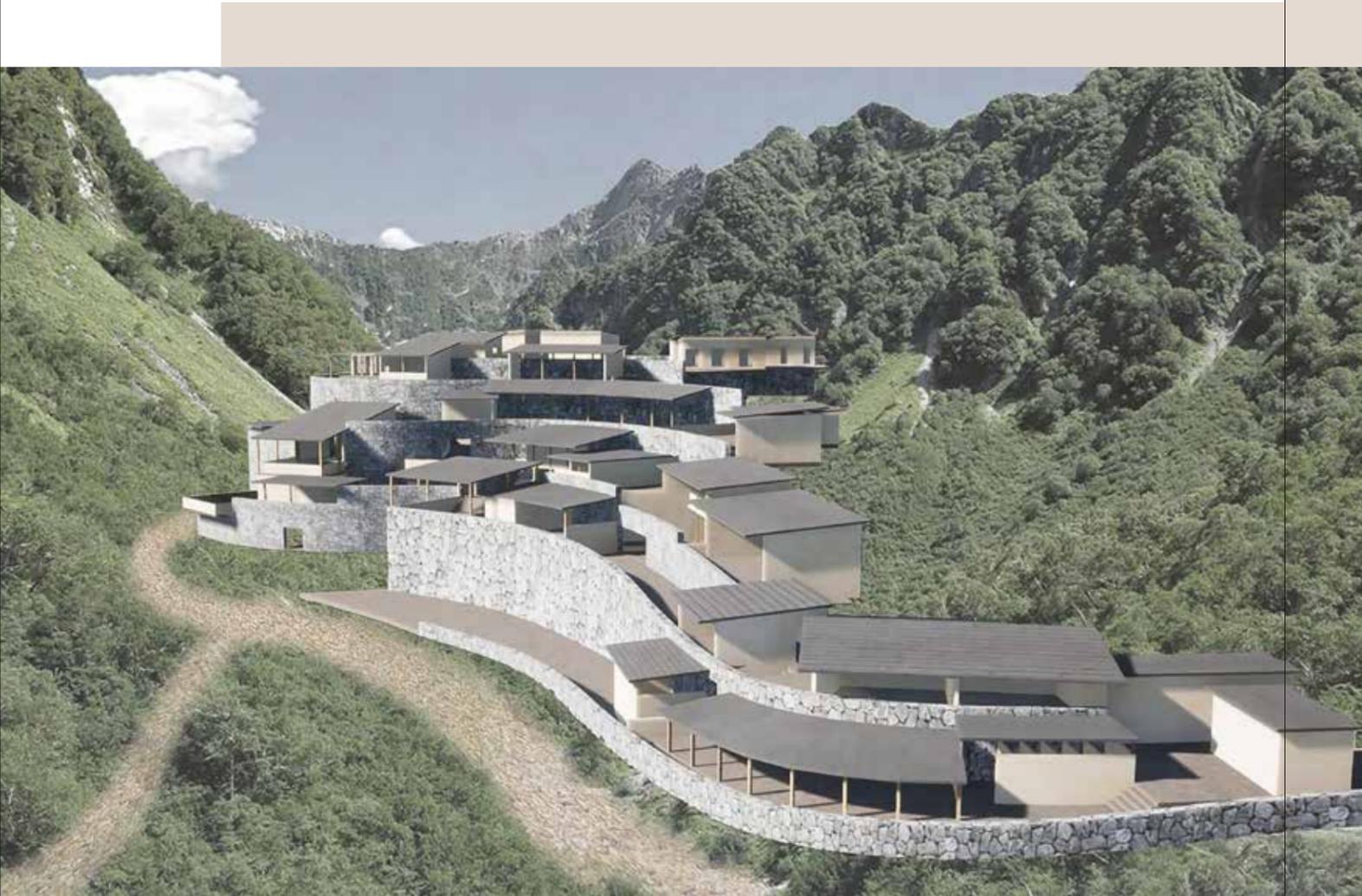


審査員 小島広行

日常の環境や行動から25個の居場所を検証し、展開する手法が高い評価となった。
25個の居場所は、単なる居場所ではなく人間一人ひとりの身体的ケアを図れるケア空間として創出している点が出しており、その組み合わせにより様々な大小スペースを生み出し整理されている魅力的な建築である。
3カ所のSITEが、それぞれに住まう人を限定しながら内外空間を連結遮断しながらケア空間として、心地良い空間を提案している力作である。
様々な家族形態、年齢層を加味し心境の変化、天候の変化等々にも対応可能な空間をイメージし、界隈性も担保しながらの提案である。
人の感受性に着目した作品として、人々の建築空間におけるケアについても高い評価が得られた。
素晴らしい感性の持主として活躍できると確信する。

In the mountain village of Yaizu City, Shizuoka prefecture, The old Tokaido runs through the village and was used as an important transportation hub during the Edo period. Today, many bikers visit the village where a trailhead is also located, leaving behind remnants of old travelers. My site survey focuses on how there is no specific place for bikers to rest, and how the commerce of the isolated village has been declining. My proposal is a base for bikers that makes use of the stone walls that

support the village landscape. Encounters with people and creatures through mountain climbing, and the feeling of biking a new trail can be experienced through the spaces composed from hot springs, restaurants, and accommodation buildings scattered across the site. Hikers can share their experiences and memories, and also interact with the villagers learning about the history of the area, so that The old Tokaido becomes a base for people and connects with other villages.



石積み道の道標

清水杏 日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科



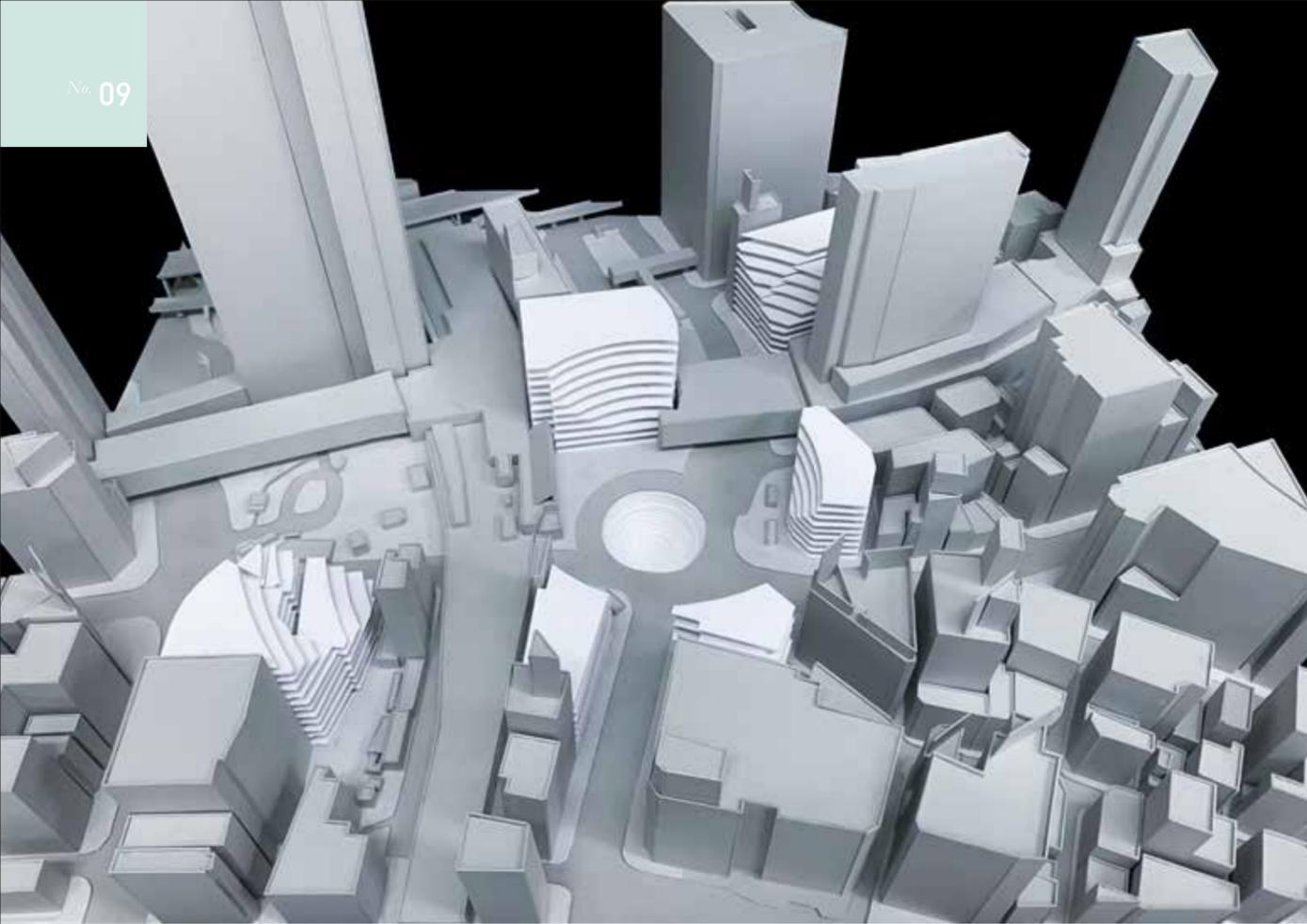
JIA 出展作品

地元である静岡県焼津市の山村集落には、旧東海道が通っており、江戸時代に交通の重要な拠点として利用されていた。登山口が集落内にあることから、現在では多くの登山者がこの場所を訪れ、昔の行き交う旅人の面影を残している。敷地調査を通じて、登山者の居場所がない状況と、生業が衰退し孤立した集落に着目し、集落景観を支える石垣を活かした登山者の拠点を提案する。登山を通じて味わうことができる人や生物との出会いや、進んだことのない道を進む感覚を空間に置き換え、温泉や食堂、宿泊棟を点在させる。登山者が疲れをとりながら、自らの経験や思い出を共有するだけでなく、集落住民と交流し、地域の歴史を知ることによって旧東海道が人々の拠り所となり、集落をつなげていく。



審査員 関谷和則

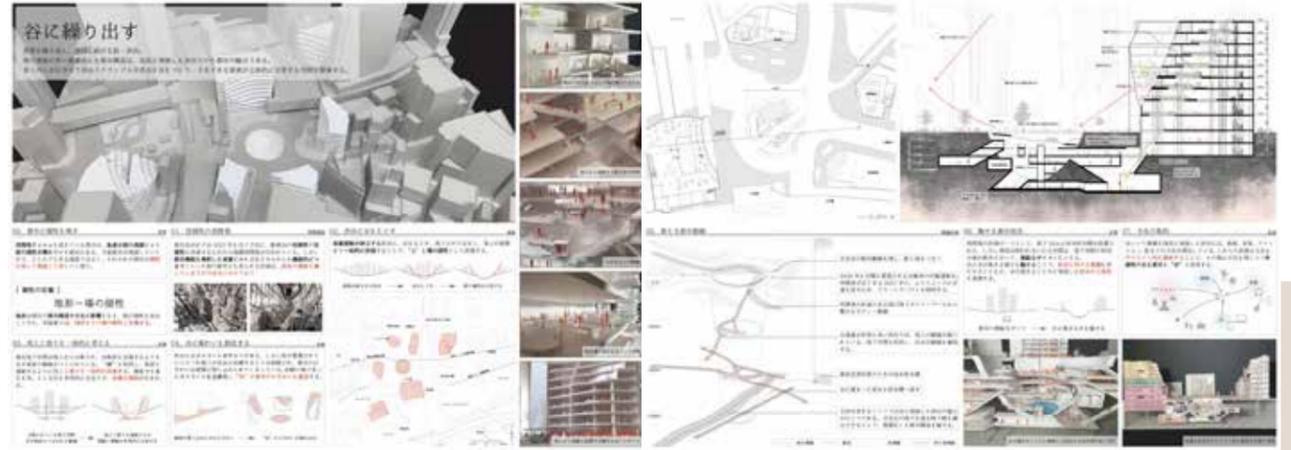
静岡県焼津市北部山麓の旧東海道沿いの伝統的建造物群保存地区花沢に建つ、温浴宿泊機能をもつ登山者向けの拠点施設である。柑橘栽培で栄えた山村集落は、傾斜地のため石垣を築いて敷地が造成された歴史があり、集落景観を意図して石積みが展開され、等高線から導かれる有機的な動線と重なる屋根が非常に魅力的である。登山客向け機能とは別に、集落の方々在日常利用する場や浴槽も用意され、程よい距離感をとった「地域内外の交流」を狙っている。石垣が生み出す「道行き」を丁寧にパースで表現しており、訪れて歩いてみたいと思わせる力作である。



Cities undergoing a rush of redevelopment tend to lose their individuality as they grow rapidly. Shibuya has developed at "valley" complicated topography and has grown as diverse city mixed some cultures. However, recent redevelopment projects have overcome the "valley", and the landscape is getting resemble other cities over the past few years. In my proposal, the topography that affect to the current urban structure and culture is defined as the character of the place. I suggest that reorganized diverse city into a "valley" based on the concept of "retrieving a valley in Shibuya".



Connecting the city of Shibuya freely by planning the above- and below-ground areas integrally, preserve the distinctive of Shibuya in terms of people, culture, environment, disaster prevention, and transportation.



審査員 河内一泰

渋谷の谷の地形が持つ劇場性を増幅する都市計画のプロジェクトである。通常、建築は一つの敷地の中に建てられ境界線を超えて大きな空間を獲得する事は難しい。しかしこの作品では谷底のスクランブル交差点を中心とした同心円を基本に周辺のビルを欠き込むことにより、点在する建物が同心円の大きな空間を浮かび上がらせていると感じた。建築単体ではなく都市スケールでの地形や空間性をデザインしていくという発想が面白いと思った。すり鉢状の断面計画においては中心部と周辺部で基準線が別々になってしまい、連続性が弱まってしまったのが残念な点であるが、谷底を開口し、渋谷の地下空間も取り込んだ提案は迫力があり共感を覚えた。



谷に繰り出す

2022 優秀賞 JIA出展作品

小林真子 日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科

再開発ラッシュを迎えている都市は、急速な街の発展に伴い、その街の個性が薄れていく傾向にある。渋谷は“谷”という複雑な地形に発展し、多様な文化が混在する都市へと成長してきた。しかし、近年の再開発では谷地形を克服するような計画が行われ、他の都市と変わらない風景が広がりつつある。本提案では、現在の都市構造や文化を生んだ地形をその場の個性と定義し、“渋谷に谷をもどす”というコンセプトをもとに、“多様性のある都市”を“谷”に再編する。谷地形に連続するように、地上と地下を一体として計画することで、渋谷の街を自由に結び、人、文化、環境、防災、交通などの観点において渋谷ならではの風景を残していく。





Therefore, we chose to "cut off" the buildings to be reconstructed at the city planning line. The disconnection then revealed a glimpse of new possibilities. In order to resist redevelopment centered on this urban planning road, we thought it necessary to visualize Shimokitazawa's back street culture in the open and expose its value. Here, "disconnection" is a manipulation to visualize the backstreetness on the surface, and the front and back are loosely connected. Focusing on the act of "cutting" that emerged in the wake of urban planning, we will perform various cutting operations on the city and its buildings.



Urban planning roads sometimes have the power to destroy the structure of a city and drastically change the surrounding environment. Today, due to such a powerful force, Shimokitazawa is losing its former town charm and is approaching the homogenized urban landscape that can be seen everywhere.



策ス切断、拓ク街

都市計画道路を契機に現れた空間活用について



山田光輝 東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

都市計画道路は時に、街の構造を壊し、周辺環境を大きく変える力を持っている。現在、そんな強大な力によって下北沢は以前の街の魅力を失いつつあり、どこでも見られる均質化された都市の風景に近づいている。

そこで、建て替えが行われる建物を都市計画線で「切断」という手法を選択した。すると切断には、新たな可能性が垣間見えた。この都市計画道路を中心とした再開発に抗うためには、下北沢の裏道文化を表に可視化して、価値をさらけ出していく必要があると考えた。ここにおいて「切断」はその裏っぽさを表に可視化するための操作であり、表と裏が緩やかにつながっていく。都市計画を契機に現れた切断という行為に着目し、街や建物に対して様々な切断を行っていく。



審査員 田邊曜

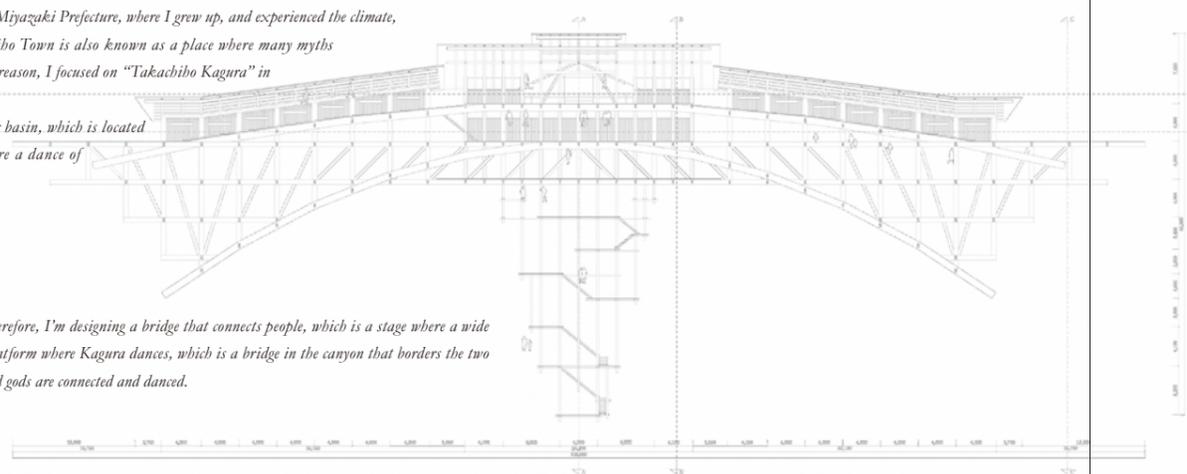
下北沢の都市計画道路が計画されている敷地で計画道路のラインで既存建築を切断し、さらにその奥の地域にも切断という操作を加え、見えなかった空間を可視化する計画である。ゴードン・マツタ=クラークの作品のように今まで見えなかったものが突然、断面図のように露わに見えてそこへ引き込む強い魅力を感じた。切断された空間はクリアなのだが、その一方、そこに補強材、内外の仕切りのファサードのガラス面などを加えられた具体的な、生な空間はまだ見えてこなかった。さらにリアルな空間を考えることで、よりこの街の魅力を感じる建築をつくることのできるのではないだろうか。また、都市計画道路で分断される道路の向かい側や、都市計画道路ができることでつながる地域への連続性など、より大きなスケールで考えることでこの提案の新たな拡がりをつくり出すと思う。



I researched Takachiho Town, Nishiusuki District, Miyazaki Prefecture, where I grew up, and experienced the climate, history, and culture of Takachiho Town. Takachiho Town is also known as a place where many myths appear in "Nihon Shoki" and "Kojiki". For that reason, I focused on "Takachiho Kagura" in the mythical landscape and designed it.

The planned site was the canyon in the Iwato River basin, which is located between the Mitai area and the Iwato area, where a dance of

kagura are slightly different. Therefore, I'm designing a bridge that connects people, which is a stage where a wide variety of kagura dances. The platform where Kagura dances, which is a bridge in the canyon that borders the two regions, is a place where people and gods are connected and danced.



神楽の降下橋

峡谷で舞う高千穂夜神楽

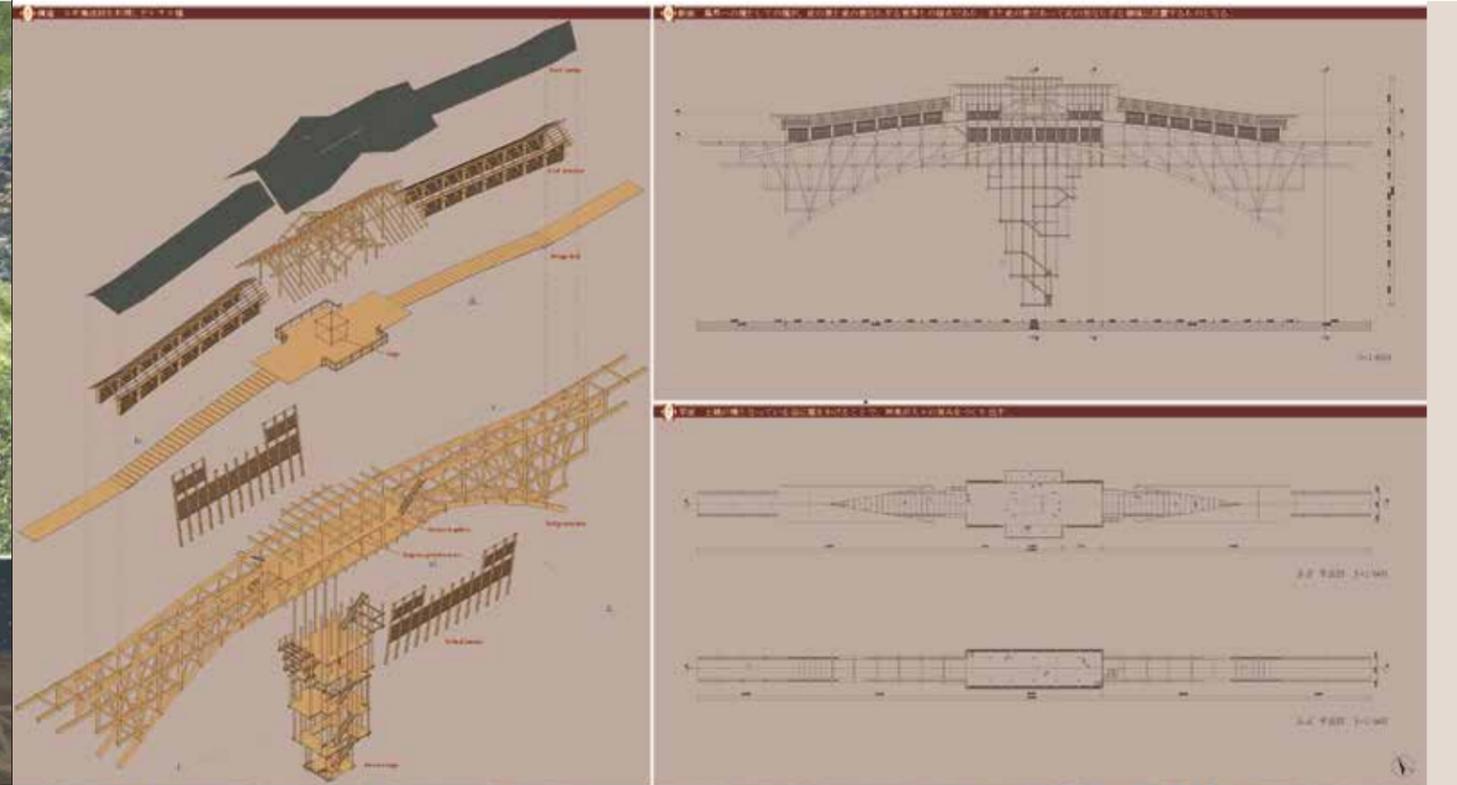


特別審査員賞

谷口真寛 日本大学 / 生産工学部 / 建築工学科

私は、自分の育った宮崎県の西臼杵郡高千穂町を研究において調査し、高千穂町の風土や歴史、文化をより体感した。高千穂町は、日本書紀や古事記などにも登場する数多くの神話が息づく場所としても知られている。そのことから私は、神話の息づく風景の中でも高千穂神楽に注目し、設計を行なった。

神楽のかたちなどが少しずつ違う三田井地区と岩戸地区の間にあり、地域の境となっている岩戸川流域の峡谷を計画敷地とした。そのため、多種多様な神楽を舞う舞台でありつつ、人々を繋ぐ橋を設計した。二つの地域の境となっている峡谷での橋であり神楽を舞う舞台は、人と神々を繋ぎ、舞遊ぶ場所となる。



特別審査員 Arch. Antonio Esposito

A wooden bridge for a ritual dance across a canyon. It lets me think immediately to the several bridges of the ukiyo-e painters... This project tries to define how we can re-think the identity of the traditional culture and spirituality. The bridge connects two villages and offers in the middle a significant point of view of the canyon, a place to stay, a shrine for meditation, a shelter for the "sudden shower" as Hiroshige represent, a place to dance the ritual Kagura, but mainly-I think - a structure to descend in the middle of the void space: a really unique intuition! The wooden beams of the structure and the stairs go down towards the river flow, slowly dancing themselves a kind of Kagura. I hope one day to arrive in Takachiho and listen somebody saying to me: "You have to visit our fantastic Kagura bridge!"

峡谷に架かる神楽の為の木橋、作品を見たときに浮世絵にみられる様々の橋の風景が浮かびました。峡谷を挟んだ2つの村、2つの異なる神楽をつなぐ橋は、渓谷の風景の中に留まり、瞑想する神社の様でもあります。神楽と言う土地固有の伝統文化と精神性の再考と再構築の試みを感じられます。神楽を踊り楽しむ空中棧敷、そこから渓谷へらせん状に舞いながら降りてゆく空間と構造は美しく素晴らしい発想です。私には広重の絵にある夕立に雨宿りする風景を連想させました。いつの日か私が高千穂に行ったときに、土地の人達が「高千穂の素晴らしい神楽橋をご覧ください」と案内されることを願っています。



審査員 向後勝弘

最初にこの作品を見たとき、深い谷に架かるアーチ橋の曲線の美しさと、屋根のある橋としてそのスケールの大きさに驚かされた。橋の中央に設けられた空間が神楽の舞台だと知り、伝統的な屋根形状の選択と杉材を使った西洋的なアーチ曲面の融合が独特な造形を醸し出していることがわかった。神話の里である「高千穂」で舞われる伝統的な神楽を取り上げ、峡谷で分断された二つの地区を繋ぐ橋を架けて人と神楽を繋ぎ、二つの地域の神楽が混ざり合い多種多様な神楽を舞う場所の提供を提案している。そして橋の中心から谷に降下した舞台を配置して神々の舞い降りる場所をつくることで特徴的な橋の造形となっている。しかし、舞台のある橋を架けることで、二つの地区の交流は生まれるだろうが、多種多様な神楽の舞は二つの地域の神楽にとどまらず、高千穂全域の神楽が集まる場所として、神楽の伝統を守り、伝承して行くための場所としたい。いずれにしても、世界中の人に高千穂の歴史を伝え、人々に感動を与える美しさを持っている。

Due to the concentration of people in urban areas and the decrease in intergenerational exchanges due to the rapid declining birthrate and aging population, blood ties and territorial ties have diminished, and it has come to be called an "unrelated society." I think that people can make new discoveries and enrich their lives by talking, listening, and interacting directly. I propose a "third place" that allows you to connect with others and daily use and non daily use.



The building will be constructed with curves in Utase, Mihama-ku, Chiba, where the population is increasing due to development. Spaces with different shapes, sizes, and settings created between curves remind people of various ways of using them, such as gathering with a large number of people or spending time alone. And I hope that people will feel free to spend their time and use it.



新たな「縁」をつくる立体広場 思い思いに過ごせるサードプレイスを目指して



横山拓海 東京電機大学 / 未来科学部 / 建築学科

人々の都市部への一極集中や急速な少子高齢化による世代間交流の減少などから血縁、地縁が希薄化し「無縁社会」と呼ばれるようになった。私は人が直接話したり、聞いたり、触れあうことで新たな発見があったり暮らしが豊かになるのではないかと。他者と繋がることができ、日常利用と共に非日常的な体験のできるサードプレイスとなる建築を提案する。

開発により人口が増えつつある千葉市美浜区打瀬に曲線で建築を構成する。曲線の間から生まれる形や大きさ、設えの違う空間は大人で集まったり一人で過ごしたりと人々に様々な使い方を想起させる。そして人々が気軽に、自由に、思い思いに過ごし、利用することを期待する。



01 設計背景
人々の都市部への一極集中や急速な少子高齢化によって、血縁に代わってつながりが薄れてくる。都市部には多様な人が集まる。互いに話したり、聞いたり、触れあうことで新たな発見があったり暮らしが豊かになるのではないかと。他者と繋がることができ、日常利用と共に非日常的な体験のできるサードプレイスとなる建築を提案する。

02 対象地域
幕張新都心の中核部に位置する。近年の増加により無縁化が進んでおり、その中でも40代〜50代が突出して多い。この地域は多様な人が集まる。互いに話したり、聞いたり、触れあうことで新たな発見があったり暮らしが豊かになるのではないかと。他者と繋がることができ、日常利用と共に非日常的な体験のできるサードプレイスとなる建築を提案する。

03 デザイン
1. 道路線に合わせたような曲線の形
2. 緑の建物と曲線の建物とを組み合わせる
3. 曲線の建物と曲線の建物とを組み合わせる
4. 曲線の建物と曲線の建物とを組み合わせる

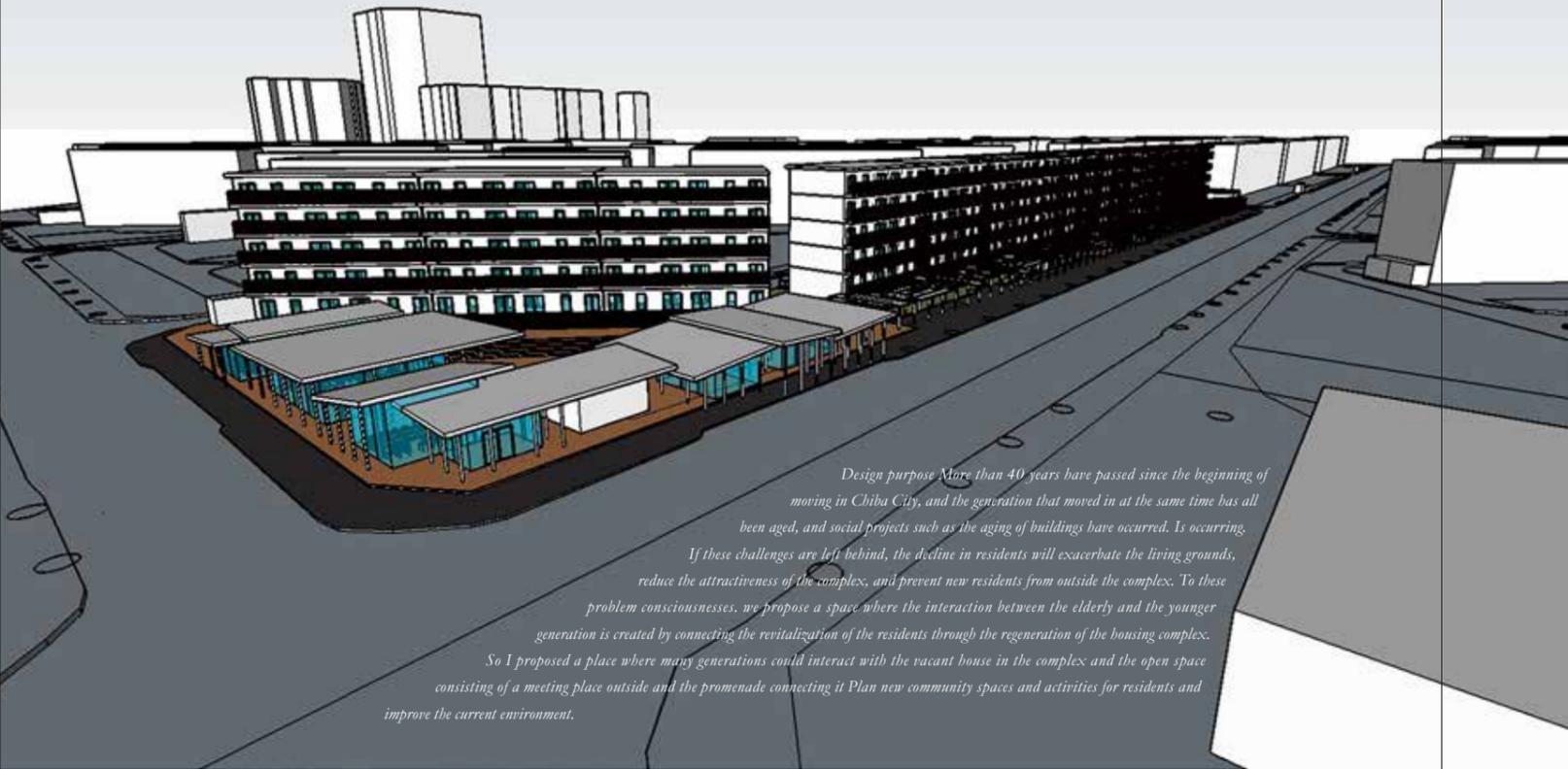
04 プログラム
居住する空間は、生活の場としてだけでなく、サードプレイスとしても機能する。また、地域の活性化や交流の場としても機能する。また、地域の活性化や交流の場としても機能する。また、地域の活性化や交流の場としても機能する。

05 設計手法
人はそれぞれ異なる。その空間を共有せざるを得ない。その空間を共有せざるを得ない。その空間を共有せざるを得ない。その空間を共有せざるを得ない。

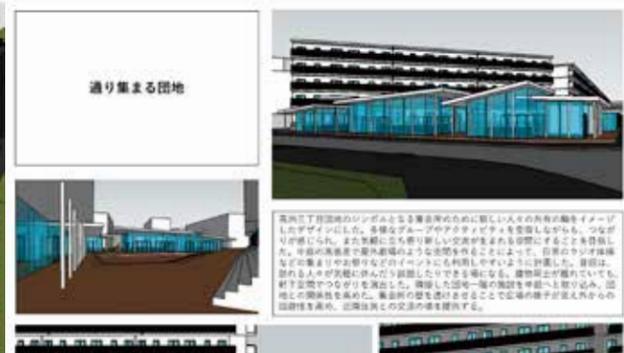


審査員 田邊暉

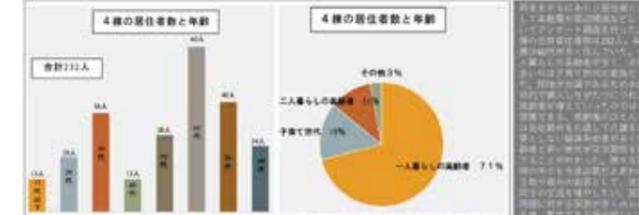
幕張新都心にある既存公共施設に隣接した敷地で、広場のような建築をつくる計画である。道路側は街区割を踏襲した直線で構成し、その内側は隣地建物の延長から生まれた曲線で構成し、様々な大きさの曲線の凹凸でスケール感の異なる居場所をつくりだしている。この提案から、建築を訪れる人々が生き生きと楽しんで居場所をみつけていく、リアルな空間の魅力を感じた。作者がこの建築の中に入って実際の空間を想像し、自身も楽しみながら設計を進めていったような空間の楽しさが伝わってくる。中庭を含めたランドスケープと建築との連続性、敷地を超えた都市スケールでの連続性をさらに考えていくと、より強い地域との関係をつくりだす建築の提案となるだろう。



Design purpose More than 40 years have passed since the beginning of moving in Chiba City, and the generation that moved in at the same time has all been aged, and social projects such as the aging of buildings have occurred. Is occurring. If these challenges are left behind, the decline in residents will exacerbate the living grounds, reduce the attractiveness of the complex, and prevent new residents from outside the complex. To these problem consciousnesses, we propose a space where the interaction between the elderly and the younger generation is created by connecting the revitalization of the residents through the regeneration of the housing complex. So I proposed a place where many generations could interact with the vacant house in the complex and the open space consisting of a meeting place outside and the promenade connecting it. Plan new community spaces and activities for residents and improve the current environment.



千葉市の高洲三丁目団地は幅広い世代が住んでいる。私から近い頃スイカ割りや神楽舞など三丁目全体で楽しむ行事があり賑わっていた。大きくなって参加したいし、手伝いたいと思っていた。しかし、現在の高洲団地の賑わいは失われており、居住者の高齢化や空き家の増加によって空気が冷たく寂しくなってきた。私はあの賑やかな高洲三丁目団地をまた見たい。そして今住んでいる子供にも世代関係なく集まる楽しさを知って欲しいと思っている。そこで団地内は空き家、外には集会所からなる広場空間とそれを繋ぐプロムナードで多世代が交流できる場を提案する。居住者に新たなコミュニティ空間やアクティビティを計画し、高洲三丁目団地で起きている課題に改善する計画。



高洲三丁目団地のレジデンスとなる集会所のために新しい入居者のためのイメージが描かれた。また高齢化と空き家の増加による課題を解決することを目的とした。高齢者の高齢化や空き家の増加による課題を解決することを目的とした。高齢者の高齢化や空き家の増加による課題を解決することを目的とした。

通学中の団地の子供が遊び場として利用できる場所として空き家を活用。広場の延長と多様な空間を作り、コミュニティの世代間交流を促す。



通り集まる団地

高洲三丁目団地の再生



2022

奨励賞

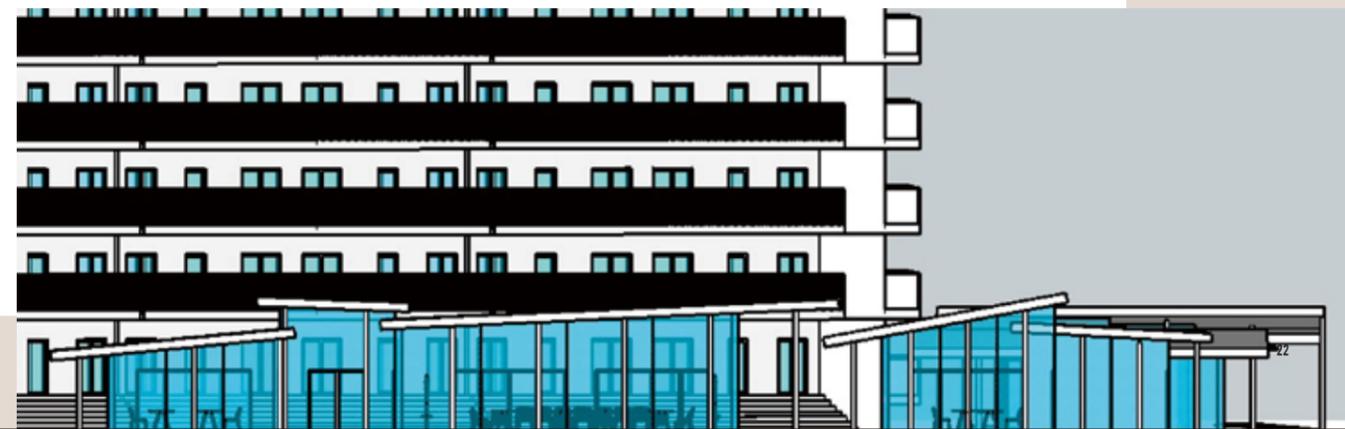
今村元春 千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科

千葉市の高洲三丁目団地は入居開始から40年以上が経過し、建物の老朽化などの、物理的課題や同時期に入居した世代が一斉に高齢化、空き家の増加などの社会的課題が発生してきている。これらの課題を放置すれば居住者の減少により住環境が悪化するほか、団地の魅力が低下し、団地外から新たな入居者が見込めなくなることが想像できる。このような問題意識にたち、住宅団地の再生を通して、住民同士の活性化につなげるため、高齢者と若い世代の交流が生まれる空間を提案する。そこで団地内は空き家、外には集会所からなる広場空間とそれを繋ぐプロムナードで多世代が交流できる場を提案。居住者に新たなコミュニティ空間やアクティビティを計画し現環境を改善する。



審査員 関谷和則

千葉市高洲の団地再生計画である。住民の高齢化や空き家の増加に伴い、かつての団地の賑わいが失われつつあることを課題とし、一住民として設計者として再生を図ろうとする意欲作である。リニアに連なる住宅棟をパーゴラで構成されたプロムナードによって一体化し、その中に集会所や休憩スペースなどの溜りを設けている。また、空き家を利用し、団地に住むリタイヤ世代の方が子育てを支援したり、不要となった衣類やおもちゃを共有するスペースをつくらせりと、団地の賑わいを創出する“ソフトのアイデア”も展開されている。パーゴラの通路空間が団地全体につながるなど、面的な再生につながっていくことが期待される。



In a streamlined space, the act of "thinking" by the user has been abandoned, so I wanted to find an opportunity to promote the improvement of spatial cognitive ability.



Therefore, we propose a place for people living in a rationalized space to acquire ambiguous affordances and enjoy "placement". We considered providing a place in the form of a cafe so that you can experience it more easily. The proposal was designed with the concept of a cafe that incorporates the characteristics of a jungle gym where different scenes are created depending on the user.



多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間

2022 奨励賞

吉田千春 千葉工業大学 / 創造工学部 / デザイン科学科

合理化された空間では、使い手の「考える」という行為を放棄させてしまっていることから、空間認知能力の向上を促すきっかけを見出したいと考えた。そこで合理化された空間で生きている人々に対して、多義的アフォーダンスを獲得して「場所化」を楽しむことを目的とした場を提案する。より気軽に体験できるようカフェ形態での場の提供を考えた。提案物は使い手によって異なるシーンが生まれるというジャングルジムの性質を組み込んだカフェというのをコンセプトに設計した。



審査員 櫻井彩

とある公園に敷地を設定し、使い手に更新を委ねる装置のような建築を計画する提案。

ある程度モジュール化された造形＝ジャングルジムのような全体像が使い手の自分ごと化を誘発しているようにも感じた。もし自分の身近に自ら手が加えられるこのような建築が本当に存在するのであれば、自分はどう居場所をつくるのか発表時には無意識に考えていた。家具以上建築未満で人の関わりしるがある、装置的な建築には今後の可能性を感じる一方で、装置的と感じたからこそカフェというプログラムが本当に今回適してたのかは、まだまだ考える余地がありそうだと思う。

住人が自ら公共的な建築に関われる可能性を増やせる可能性は秘めている。





"IGUNE" were once the original landscape of the Sendai Plain. IGUNE were indispensable for the life in those days, providing windbreaks to protect houses, building materials, firewood for fuel, and fruits for food. Times have changed and the life that depended on IGUNE was over. Now it is designated as a preserved forest and they are just trying to protect the trees. As a result, only the bad points, such as large shadows and large amounts of fallen leaves, stand out. What is the best way to use and preserve IGUNE today? This is a proposal for the future of IGUNE. It focuses on the existing IGUNE farmers and visualizes the relationship between trees and life. We will collect IGUNE products that remain in the Sendai Plain on this site, and construct buildings that make the most of the existing main building, storehouses, huts and IGUNE. And I hope that IGUNE will continue to remain in the Sendai Plain with understanding.



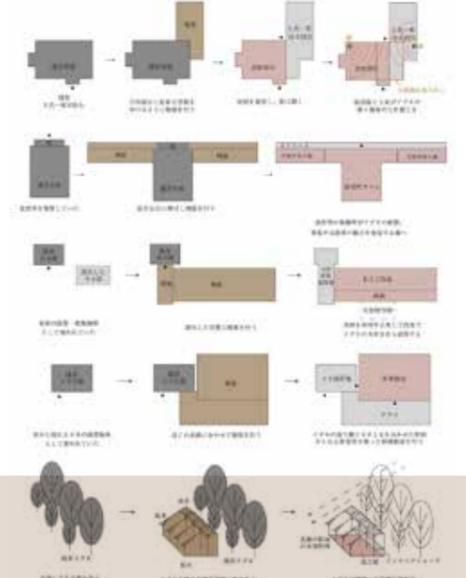
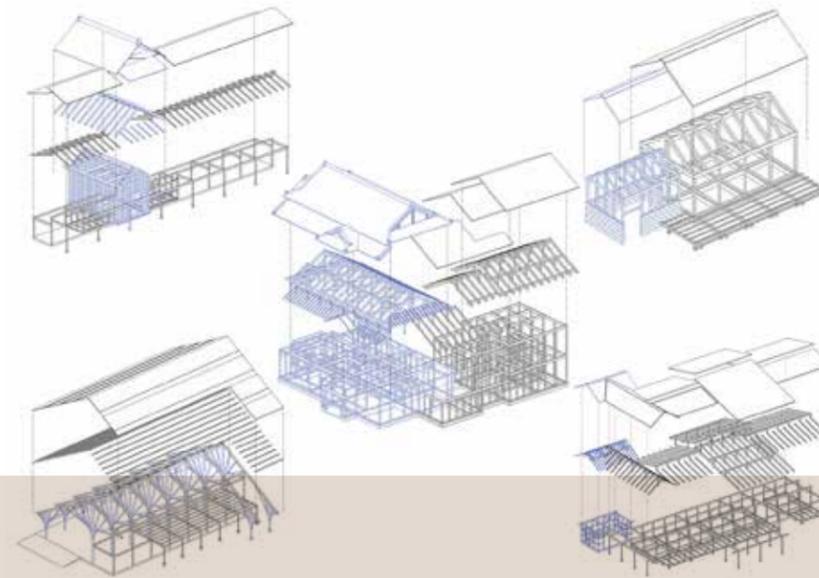
仙台平野の屋敷林イグネのこれから

木と暮らしの関係を可視化する既存の活用

竹村勇耶 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 建築学コース

かつての仙台平野の原風景、屋敷林の「イグネ」。家を守る防風効果や、建材、燃料としての薪、食料としての果実等、イグネの木は当時の暮らしに欠かせなかった。時代が変わり、イグネに頼る暮らしが終わったが、保存樹林に指定し、ただ木を守ろうとしている現在、大きな影ができることや、大量の落ち葉等の悪い点だけが目立っている。現在におけるイグネの使い方、残し方は何なのか。これは、現存するイグネ農家に着目し、木と暮らしの関係を可視化する、これからのイグネの在り方の提案である。仙台平野に残るイグネの産物を集め、既存の母屋や蔵、小屋等を最大限活用した建築により、今後もイグネが仙台平野に理解された形で残ることを期待する。

2022 奨励賞



審査員 櫻井彩

もともとまちを支える存在であった「イグネ」を現代の時代性にあった状態で再解釈して建築化するプロジェクト。実際に現地でのイグネ農家へのヒアリングでリアルな声を拾い上げ、実感を持った状態でプロジェクトを始動している。ヒアリングをかけたイグネ農家の方のこの建築ができた後の関わり方なども、提案できているのか聞きそびれてしまったが、イグネへの理解を高める一方で、建築としてもイグネを可視化させ、ハード、ソフトともに並走るかたちで提案する内容に切実さを感じ、内容にとても共感した。実際に、他にも地方などには対象物は少しずつ異なるかもしれないが、同じような問題を抱えた地域があるはずで、その解決の糸口になる可能性を孕んでいる。

Etajima City, Hiroshima Prefecture, has been actively engaged in oyster farming since ancient times, taking advantage of the calm waters. However, in recent years, environmental pollution caused by oyster farming has caused damage to residents, such as the disposal of bamboo used in oyster rafts in the open burning and the outflow of a large amount of plastic farming pipes to the sea. On the other hand, in the area, the growth of bamboo has become a problem mainly in abandoned cultivated land.



Therefore, we propose a circulating oyster farming facility that uses bamboo, which is an unused resource in the region, as an oyster farming material and returns it to the region again as a soil conditioner and weed control.

This plan will strengthen the relationship between oyster farmers and residents and will be a way to solve environmental problems and bamboo damage in oyster farming. We will continue to cultivate sustainable oysters, protect the rich sea and mountain environment, and pass it on to the next generation.



Kota

牡蠣と竹と生きる島

循環型牡蠣養殖施設の提案



2022 奨励賞

坂倉康太 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 都市環境システムコース

広島県江田島市は穏やかな海域を活かし、古くから牡蠣養殖が盛んに営まれてきた。しかし近年、牡蠣筏で使われる竹の野焼き処分や、大量のプラスチック養殖パイプが海へ流出するなど、牡蠣養殖による環境汚染が地域住民へ被害を及ぼしている。一方、地域内では耕作放棄地を中心に竹の増殖が問題となっている。そこで、地域の未利用資源である竹を牡蠣養殖資材とし、土壌改良剤や雑草対策として再度地域へ還元する循環型牡蠣養殖施設を提案する。本計画は、牡蠣養殖業者と地域住民の関わりを強化させ、牡蠣養殖の環境問題、竹害解決への道筋となる。持続可能な牡蠣養殖、豊かな海と山の環境を守り、次世代へ継承していく。



審査員 小島広行

海岸線の地形を読み解き、建築形態の決定を行うと共に人の動線も地形に馴染ませた計画である。プログラムとしては、牡蠣の養殖筏で使用した廃棄する筏材を再生させながら、地域の人々との連携を高められる施設の構築を図った建築であり、環境問題を掲げながら地域創生を目指した設計手法が評価できる。平面・立面・断面計画等への更なる深い検証と説明があると、施設の在り方や地域の人々との関わり合いが見えてくる作品である。建築の素敵さを表現すれば、素晴らしい作品として創出可能と確信する。全体の、取組む姿勢と手法、意欲は大いに評価でき、今後の活躍を期待する。

Japan has many disasters, and every time a disaster occurs, we see many problems. There are many problems with evacuation centers in particular, and various measures have been taken, but they are often inadequate. Victims will be forced to live in shelters until reconstruction.

For the problem of evacuation shelters, we think that variable architecture will make the evacuation life comfortable, and propose architecture on the premise that the evacuees themselves

will change the space, such as expanding the space and constructing temporary housing. In this proposal, by preparing the elements of self-buildable temporary housing as a part of the evacuation shelter, it is possible to create a living base at the pace of the evacuees immediately after the disaster.

Creating a space with our own hands gives us a sense of security and a sense of accomplishment by feeling the process of repairing what was lost due to a disaster.



可変的な避難所の提案



2022 奨励賞

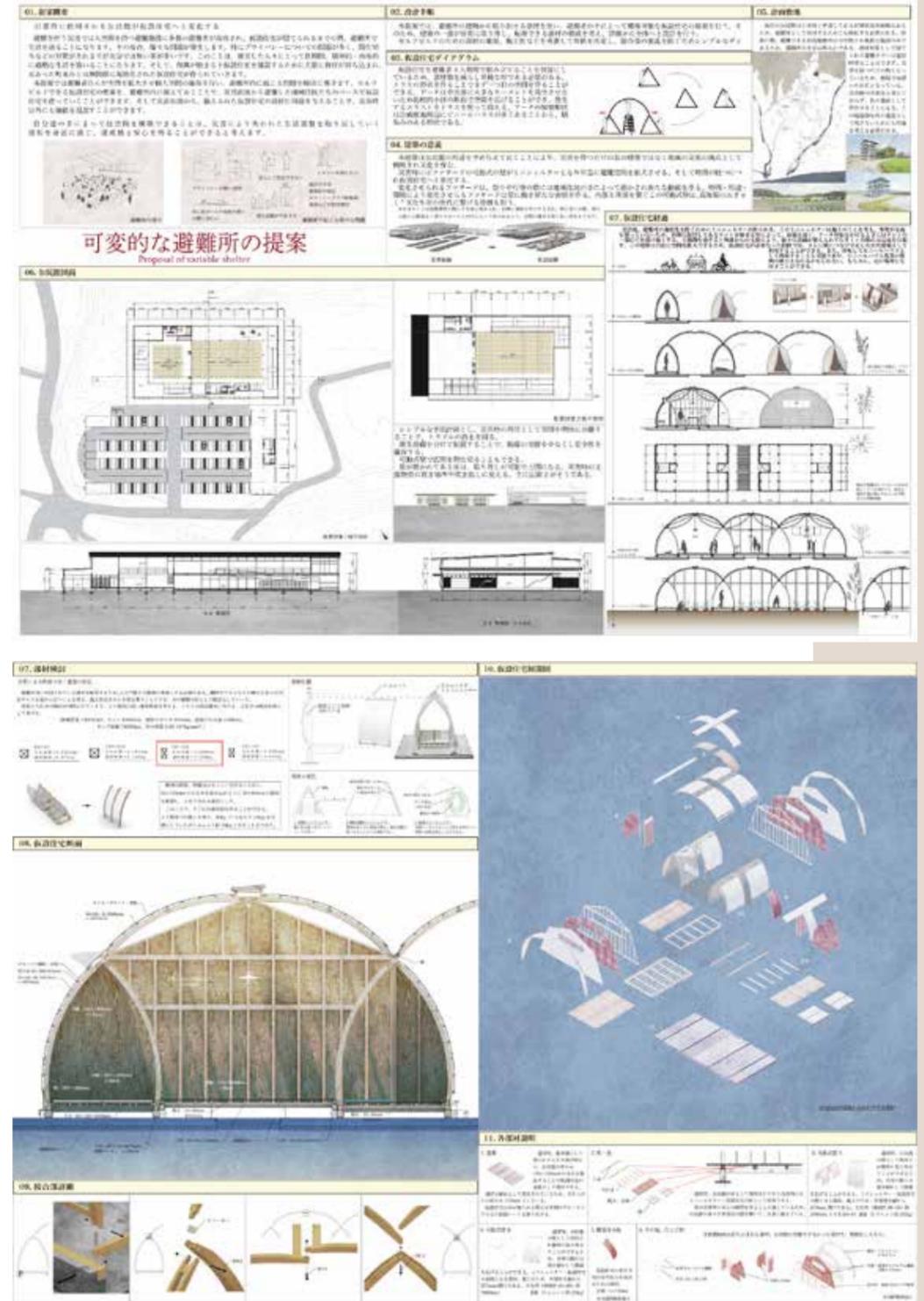
小松龍矢 千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科

日本は災害が多い、災害が起きるたび多くの問題を目にする。特に避難所についての問題は多く、様々な対策が講じられているが、不十分な事が多い。被災者は復興までの期間、避難所での生活を強いられることになる。

避難所の問題に対し、可変的な建築が避難生活を快適にすると考え、空間の拡大・仮設住宅の構築など、避難者自身が空間を変化させることを前提に建築を提案する。

本提案ではセルフビルド可能な仮設住宅の要素を、避難所の一部として備えておくことで災害直後から避難者のペースで生活基盤を作ることができる。

自分達の手によって空間を生み出すことは、災害により失われたものを修復していく過程を感じ、安心と達成感を得ることができる。



審査員 向後勝弘

大きな災害に備えて避難場所や避難所が指定されているが、津波避難タワーは平常時には使用されず、災害を待つだけの建物となっており、大空間を持つ避難施設には多数の避難者が収容されて、プライバシーのない空間で過酷な避難生活を強いられる。作品はこの問題に画期的な提案を行っている。普段は公民館として利用されているが、一度避難施設となったときには、取り外し可能な公民館のファサードや床材などを利用して避難者自らが応急のミニシェルターを建築し、次第に居住性を高めた仮設住宅を作って行くものである。この建築を実現するために、事前に駐車場の車止めを兼ねた基礎を構築し、人力で建築するためのユニット重量や接合部のディテールまで検討されており、また架構形式も合理的である。居住スペース以外にも公民館に更衣室やシャワーなどの衛生設備や、食事をとるための機能を持たせるなど全体としての計画がなされており、完成度の高い作品となっている。避難所内にプライバシー確保のための空間を作る様々な提案はされているようだが、屋外にこれだけ短期間で居住性の高い避難施設を作る提案は実現が望まれる。



Looking at the energetic appearance of the children makes me feel energetic. Running around, chatting, drawing, reading, and so on, every day seems to be lively and enjoyable. However, a new type of coronavirus has become epidemic, and children are free to prepare it. In addition, the GIGA school concept has made it possible for each person to have a computer or tablet, and there is no space available for children's classrooms. The classroom is certainly a place to study, but more than half of the time I'm awake is at school. Even if you just build a place to study, the child will say, "It will be useless, but in order to generate interest and interest, it is necessary to change the environment. Plan an elementary school with the classroom space removed."



閉鎖から解放へ

こどもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。

教室用机の使用状況

700×500 (新旧併用)	2%
500×400 (新旧併用)	45%
600×450 (新旧併用)	50%
その他	3%

教室の現状
GIGAスクール構想により、1人1台1台の端末が配備されたが、既設機(800mm×400mm)の規格、素材と規格を揃うのが難しく、9分枠スペースが空いた。新機種(500mm×400mm)で7分枠、新機種と規格を揃うことができるものの、9分枠スペースは、そこで、机の数を多くして300mm×400mm×1000mmの規格も検討する。この規格により机の数を揃えることができた。

教室の拡大を検討
教室の現状である20分枠を想定し、既設機を1台分だけ撤去した。20分枠が広くて解放感のある小学校ではあるが、既設機は撤去しにくい。新機種は撤去されていく。子どもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。

教室の現状
GIGAスクール構想により、1人1台1台の端末が配備されたが、既設機(800mm×400mm)の規格、素材と規格を揃うのが難しく、9分枠スペースが空いた。新機種(500mm×400mm)で7分枠、新機種と規格を揃うことができるものの、9分枠スペースは、そこで、机の数を多くして300mm×400mm×1000mmの規格も検討する。この規格により机の数を揃えることができた。

教室の拡大を検討
教室の現状である20分枠を想定し、既設機を1台分だけ撤去した。20分枠が広くて解放感のある小学校ではあるが、既設機は撤去しにくい。新機種は撤去されていく。子どもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。

教室の現状
GIGAスクール構想により、1人1台1台の端末が配備されたが、既設機(800mm×400mm)の規格、素材と規格を揃うのが難しく、9分枠スペースが空いた。新機種(500mm×400mm)で7分枠、新機種と規格を揃うことができるものの、9分枠スペースは、そこで、机の数を多くして300mm×400mm×1000mmの規格も検討する。この規格により机の数を揃えることができた。

教室の拡大を検討
教室の現状である20分枠を想定し、既設機を1台分だけ撤去した。20分枠が広くて解放感のある小学校ではあるが、既設機は撤去しにくい。新機種は撤去されていく。子どもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。

教室の現状
GIGAスクール構想により、1人1台1台の端末が配備されたが、既設機(800mm×400mm)の規格、素材と規格を揃うのが難しく、9分枠スペースが空いた。新機種(500mm×400mm)で7分枠、新機種と規格を揃うことができるものの、9分枠スペースは、そこで、机の数を多くして300mm×400mm×1000mmの規格も検討する。この規格により机の数を揃えることができた。

教室の拡大を検討
教室の現状である20分枠を想定し、既設機を1台分だけ撤去した。20分枠が広くて解放感のある小学校ではあるが、既設機は撤去しにくい。新機種は撤去されていく。子どもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。



閉鎖から解放へ 十余二小学校建て替えの提案



2022 奨励賞

兵藤翼徳 千葉職業能力開発短期大学校 / 住居環境科

こどもたちの元気な姿を見ていると、自分までもが元気になる。走り回ったり、おしゃべりしたり、絵をかいたり、読書をしたりと毎日がいきいきとして楽しそうである。しかし、新型コロナウイルスが流行し、子どもたちの自由に制限がかかるようになった。また、GIGAスクール構想により1人1台にパソコンやタブレットが配備されるようになり、子どもたちが教室で使えるスペースがなくなってしまった。教室は確かに勉強する場所ではあるが、起きている時間の半分以上は学校で生活している。ただ勉強する場所を築いても、子どもたちのためになるのだろうか。興味、関心を生ませるためには環境を変える必要がある。そこで、壁で囲まれた教室空間から、壁を取り払った教室空間の小学校を計画する。



審査員 田邊曜

母校の小学校の建て替え計画である。既存の小学校のような壁で囲まれた教室と対照的に、オープンスクールの考えを取り入れ、壁を部分的に取り払った開放的な教室空間をつくり出している。現在の提案にはないが、クラスルームの固定壁に可動間仕切りを加えて、開放的なだけでなく、時には閉じて集中して使えるようなフレキシブルな空間とすることも可能だろう。また、全ての学年が同じような構成になっているが、低学年と高学年では情操面でも大きな差があり、年齢ごとの違いも反映した空間をつくるより魅力的な空間になると思う。新型コロナウイルスによる学校生活の変化について、より積極的な取り組みを提案すると新たな学校建築を考える糸口になるのかもしれない。

Let's look not only at earthquakes but also at floods.



In recent years, abnormal weather has occurred all over the world, and floods and storm surges that accompany it have become a problem. However, a survey conducted by the Cabinet Office revealed that the public's awareness of hazard maps is low.

Focusing on Edogawa Ward, Tokyo, the area is flooded and requires wide-area evacuation in the event of a flood. However, there are currently only two bridges to move to higher ground, and there is concern that heavy congestion will occur during evacuation.

Therefore, we propose a "disaster mitigation bridge" that connects the flooded area and the hill. It will be a new flow line to evacuate to high ground in the event of a disaster, and it will be a space where people can learn about flood damage and experience the nature of the Edo River on a daily basis. The "disaster mitigation bridge" will take root in the region and become a symbol of the region that contributes to "disaster mitigation."

地域に根付く減災橋

市原優太 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科 / 都市環境システムコース



地震のみではなく水害にも目を向けてみよう。
 近年、世界中で異常気象が発生しており、それに伴う洪水や高潮などの水害が問題視されている。しかし、内閣府が行なった調査より、国民のハザードマップの認知度が低いことが明らかになった。
 東京都江戸川区に焦点を当ててみると、一帯が浸水域となっており水害時には広域避難を要する。しかし、高台へ移動するための橋が現状2つのみで、避難時に大混雑が発生することが懸念されている。
 そこで、浸水域と高台を繋ぐ「減災橋」を提案する。災害時には高台へと避難する新たな動線となり、日常では人々が水害を学び江戸川の自然を体験する空間となる。「減災橋」は地域に根付き、「減災」に寄与する地域のシンボルとなるだろう。

2022 奨励賞



審査員 河内一泰

橋とは対岸に渡るための動線であるが、それを面にして居場所をつくり橋を多義的に捉え拡張している作品である。兩岸の街の軸線は異なる角度を持っているので、それを活かし非連続的に交差させている点が面白い。本来通り抜けるだけの動線を居場所にするために滞留させたり、ループや行き止まりをつくっている。断面的にも兩岸からの面が交錯する部分でレベル差のある多層的な場所をつくっている点が良い。線の橋が面になり多層化していく方向は共感するが、提案が橋の上面にとどまっている点は残念である。多層化する1番下のレイヤーに河川敷と川があるので、それを活かせるのもっと豊かな場所になったのではないだろうか。



From ancient times, we Japanese people have built our lives, by agricultural activity of cultivating the earth and gathering harvest. In the communities of the villages, the mutual aids through agriculture are the original scenario of Japanese life. Now the farming lands have been turned to the housing sites, however, the bond through agriculture is getting weaker. Is it possible to make a town of today, where the urban agriculture has more harmonious coexistence with the local life? By that, we may realize not only the activation of the area through 'agriculture', but also activation of urban agriculture and local production and local consumption, and job industrialization of agriculture. For regaining the original scenario of Japanese life, this proposal is the trial of faculty-based agricultural community for the unity of the area, through three projects of my design.



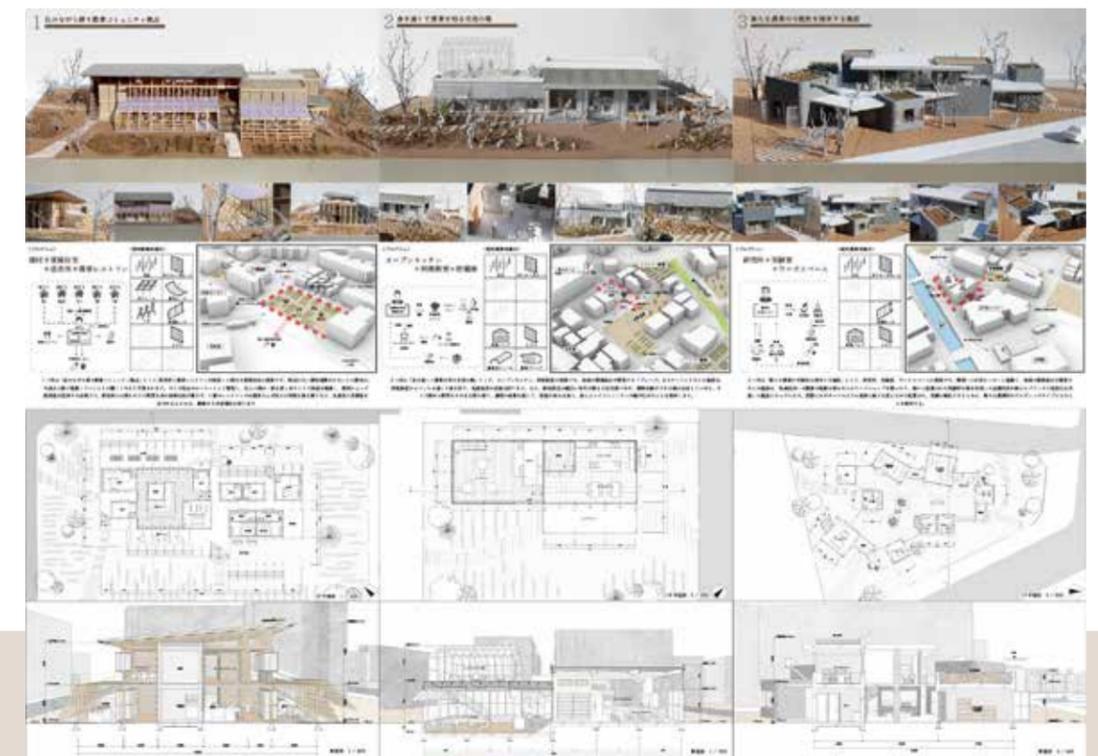
都市を耕す

今日における地縁的農業コミュニティの形成

2022 奨励賞

軽部要人 千葉工業大学 / 創造工学部 / 建築学科

古くから、私たち日本人は、大地を耕し作物を得るといった農業を通じて、暮らしを築いてきた。集落というコミュニティの中での、農業を介した助け合いは、日本の暮らしの原風景ともいえる。しかし今や、都市の農地は宅地へと変化し、農を介した繋がりは希薄になっている。もう一度、都市農業が地域の生活とより共生する街をつくれないうか。それにより「農」を介した地域の活性化だけでなく、都市農業の活性化や地産地消、農業の6次産業化を図れるのではないだろうか。本提案は、そんな日本の暮らしの原風景を取り戻すべく、設計した3つのプロジェクトを通した、地域を一体化する地縁的農業コミュニティを形成する試みである。

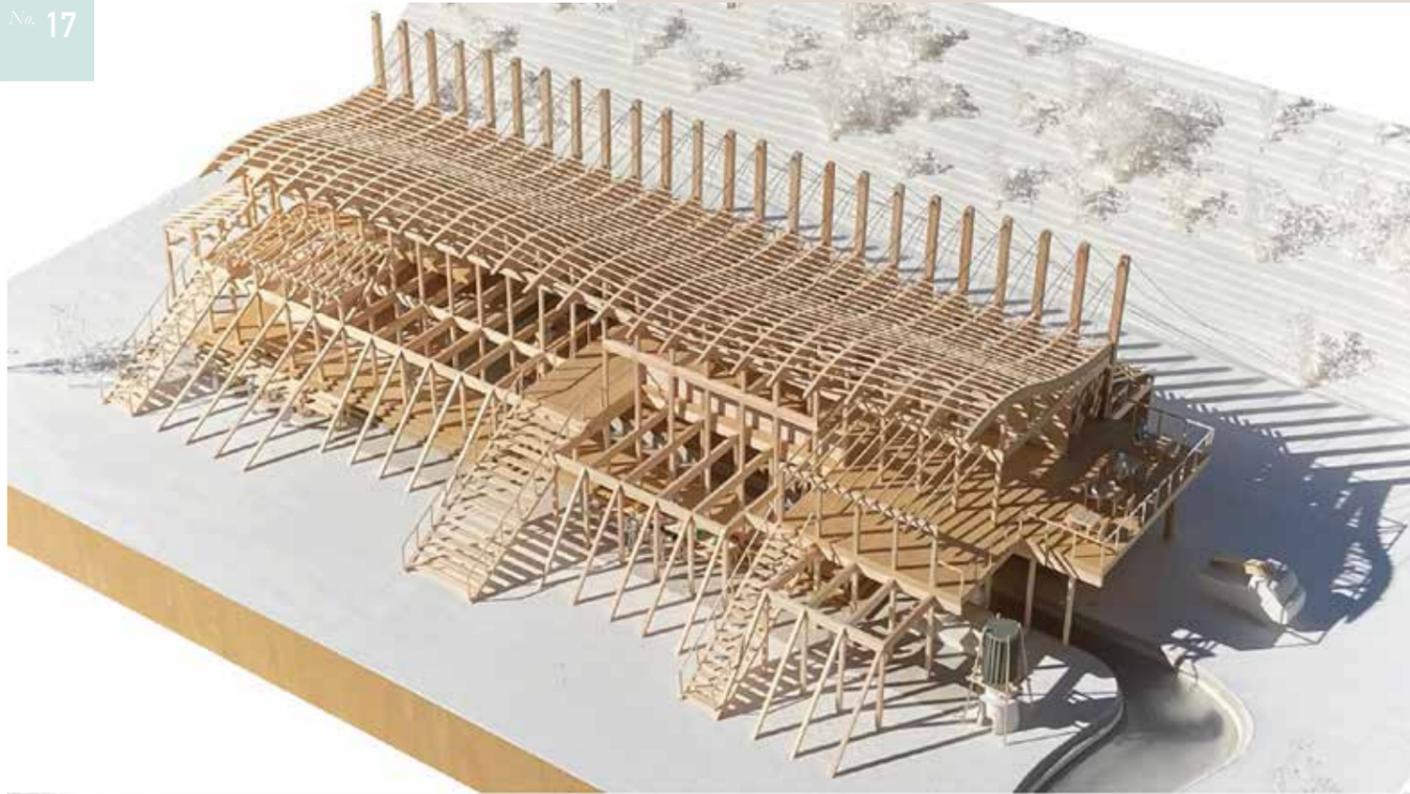


Kanato



審査員 河原泰

都市における生産緑地は単なる農作物の生産地ではなく、共同作業を行う建築を挿入することによって農業を媒介とした地縁コミュニティを生み出す場に成り得ることを提案している。多くの生産緑地が法の庇護から外れる「生産緑地2022年問題」を都市環境の悪化につながる社会的な問題として認識したところから提案がスタートしており、説得力のある鋭い着眼点にとても感心させられた。一方で、その問題の解決方法の提案である直売所や農家レストラン、料理教室の挿入は既視感のある内容であることが今一つ物足りなかった。また建築物の提案に農業資材を用いる提案は良いと思うが、農業資材の持つメリットである仮設的な要素やセルフビルド的な要素に反して、計画自体は構築的で手堅く立派な建物に見えてしまっていることが気になった。



Higashi-Chichibu Village, located in the western part of Saitama Prefecture, is the only village in Saitama Prefecture that has long spun handmade Japanese paper and sericulture with beautiful water. However, due to the abundant water resources and the difficulty of controlling them, the resource of water is being taken negatively by land-specific floods such as floods and flash floods. By creating an architecture that combines the element of water and the livelihood that has been practiced in Higashichichibu, the negative side of water will be wiped out, and the pressure of urbanization will drive the visualization of the livelihood landscape that is closed inside. The created architecture becomes a vessel for accepting livelihoods, and the visualized livelihood landscape becomes a pride of the region. Proposal of facilities as a base to connect the beautiful waterscape and livelihood landscape of Chichibu, my hometown.

水紡

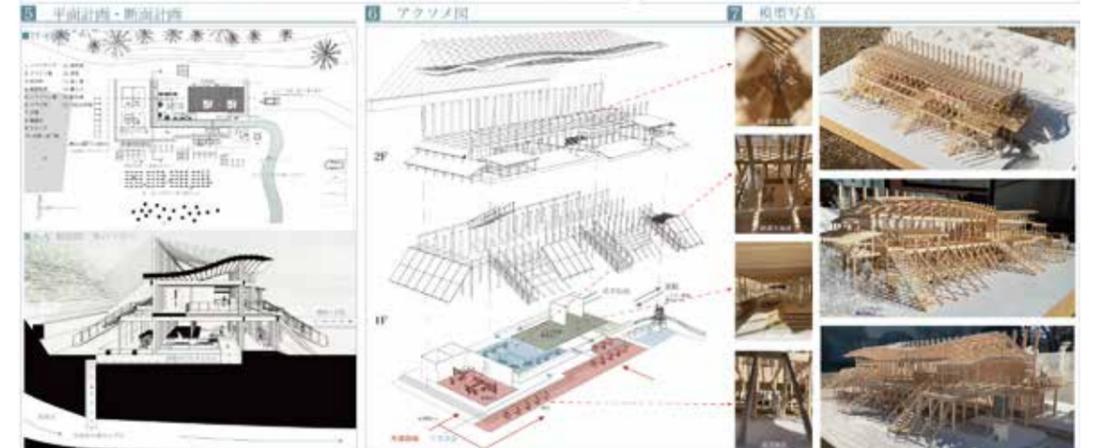
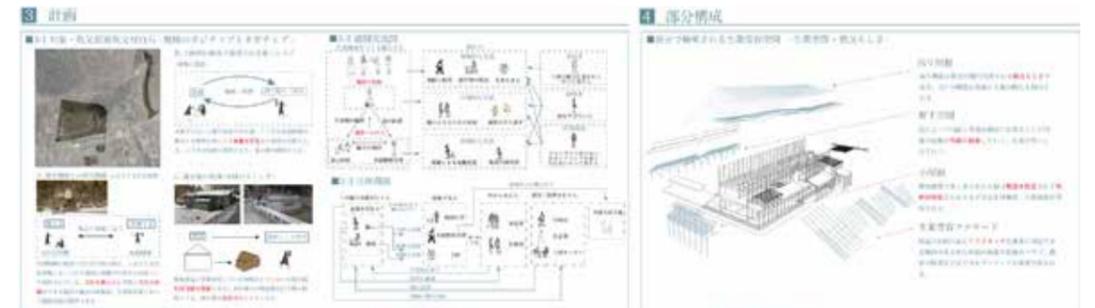
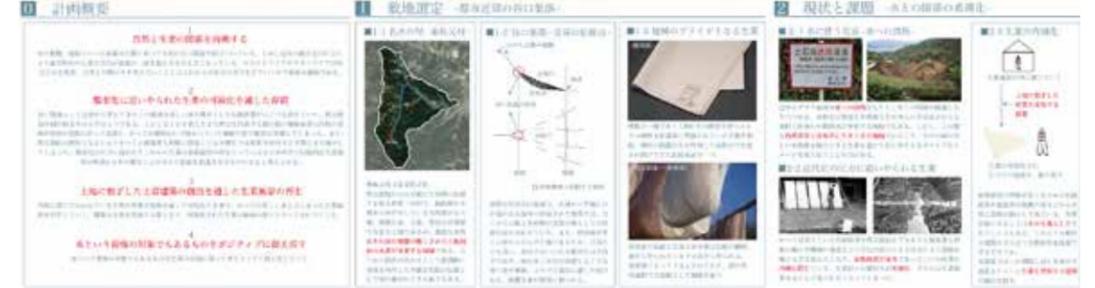
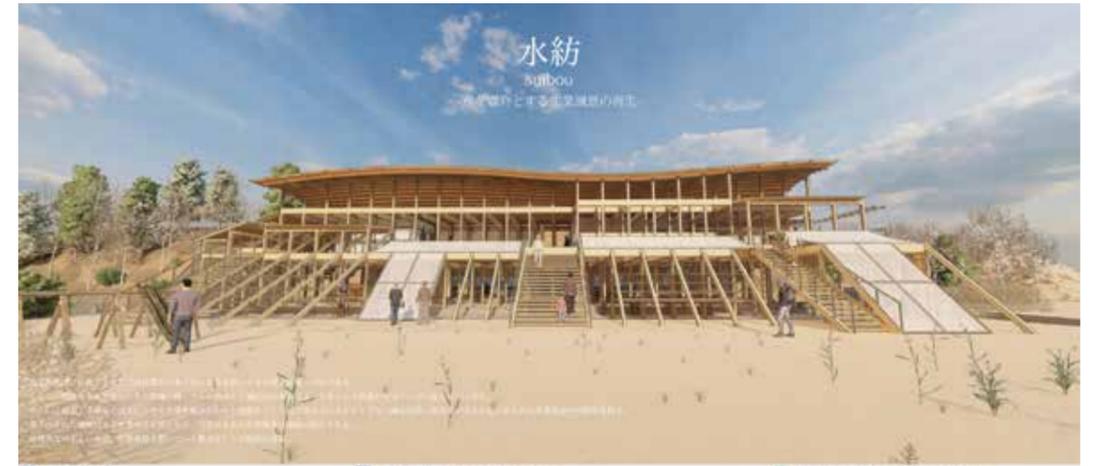
水を媒介とする生業風景の再生

比留間 謙 千葉大学 / 工学部 / 総合工学科建築学コース

埼玉県西部に位置する東秩父村は美しい水と共に古くから手漉き和紙や養蚕業の生業を紡いできた埼玉県唯一の村である。しかし、豊富な水資源ゆえにその制御の難しさから洪水や鉄砲水などの土地固有の水害によって水という資源がネガティブに捉えられつつある。水という要素と東秩父で営まれてきた生業を組み合わせることで水のネガティブな一面を払拭し、都市化の圧力に追いやられ閉じた生業風景の可視化を図る。作り出された建築は生業を受容する器となり、可視化された生業風景は地域のプライドとなる。故郷秩父の美しい水景、生業風景を繋いでいく拠点としての施設の提案。



2022 奨励賞



審査員 関谷和則

豊富な水資源のもと、手すき和紙や養蚕などの生業を紡いできた埼玉県東秩父村谷口集落。近代化や経済合理化に伴い、衰退していく生業を営む風景を可視化し、地域文化を後世に継承していくことを目指した拠点施設ある。吊り構造による軽やかな大屋根のもと展開される木造の大空間は2層で構成され、1階では川を引き込みコウゾから紙すきと紙をつくりだす一連の作業が行われ、2階では蚕棚が並び日本の近代化を支えた輸出品シルクの原料となる繭がつけられる。地元の方々が集まって生業を紡いでいく「風景」を生み出している。観光客も巻き込んだ「地域の人々の繋がり」を強化するプログラムもよく考えられている。繊細で美しい木組みの模型は圧巻で力作である。



With regard to children in recent years, it has been pointed out that they are not good at interacting with others, their motor skills are declining, and their self-defeating thoughts are increasing. We also noticed that there are many playgrounds where children seemed to enjoy themselves, but their parents felt tired. Since children feel more enjoyment when they play together with their parents, we thought it necessary to create a space where parents can also enjoy themselves. In the proposed facility, we enlarged the building of the eating space and the playground equipment by combining them, so that adults would not feel uncomfortable playing there. This building



creates a sense of three-dimensionality in the play and movement of the children, and also allows them to take a rest in the shade or inside the building on hot or windy days. In addition, we scattered elements to help children acquire the skills they want to develop together with their parents.



2022 奨励賞



えるば 大人はこどもにかえる場 子どもはチカラを得る場

荒木満由子 千葉工業大学 / 創造工学部 / デザイン科学科

近年の子どもについて、他人との関わりが苦手、運動能力の低下、自虐的思考の増加などが課題として指摘されている。また、子どもは楽しそうだったが親は疲れを感じる遊び場が少なくないことに着目した。親と一緒に遊ぶと、子どもはより楽しさを感じるため、親も楽しめる空間が必要だと考えた。提案施設は、飲食スペースの建物と遊具を掛け合わせることで大きくし、大人が遊んでも違和感のないつくりとした。この建物により遊びや動きに立体感を出して回遊性を生み出し、また日陰や建物の中で、暑い日や風が強い日などにゆっくり休めるよう計画した。さらに子どもの発達させたい能力が親と共に身に付く要素を散りばめた。



1. 親子の日常 (Daily life of parents and children), 2. 官民連携制度 (Public-private cooperation system), 3. 東京都地図位置図 (Map of Tokyo showing the location).

4. 全体構成 (Overall structure) with diagrams and text explaining the building's layout and components.

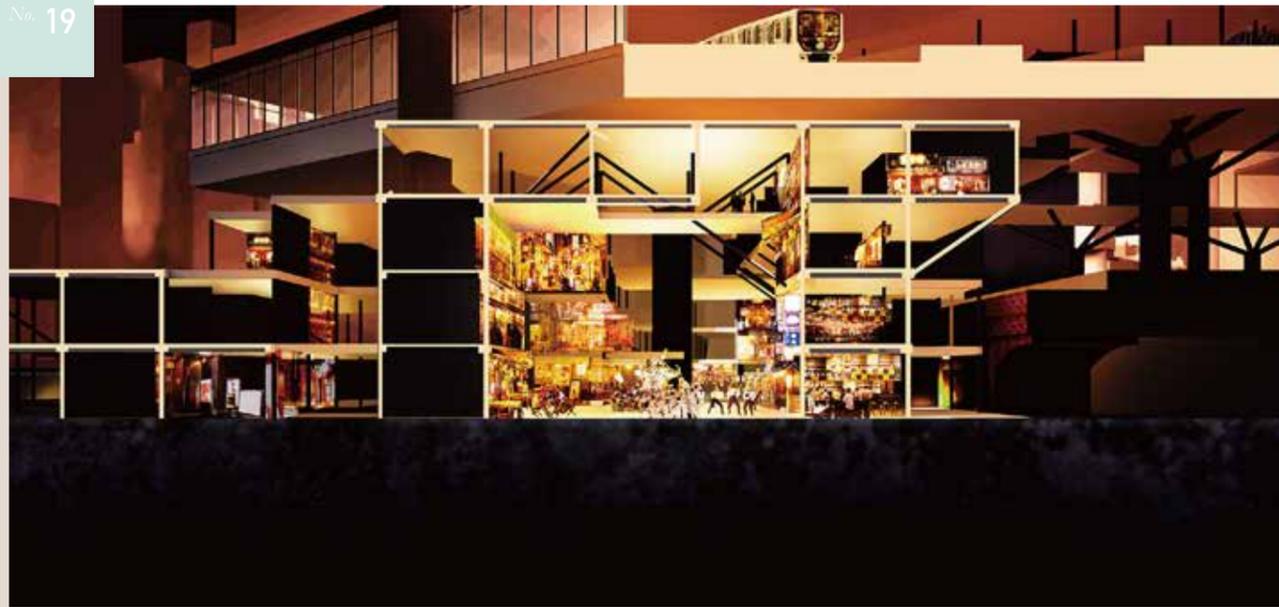
Scene1, Scene2, Scene3, Scene4 - Detailed architectural renderings of specific play areas with descriptive text.

Additional architectural renderings and diagrams showing different views and details of the building.



審査員 櫻井彩

「遊び」の中で子どもも大人も「学び」「成長」といような提案に思えた。大人も子どもも共存できる遊び空間を考えるととてもユニークな提案とわたしは捉えた。建築としてプログラムを入れざるを得なかったのかもしれないが純粋に、プログラムなしでも提案できたのかもとも思いますが、その空間の中で過ごす様子を想像するとワクワクする。学校ではない「学び」や成長のための空間として可能性を感じた。

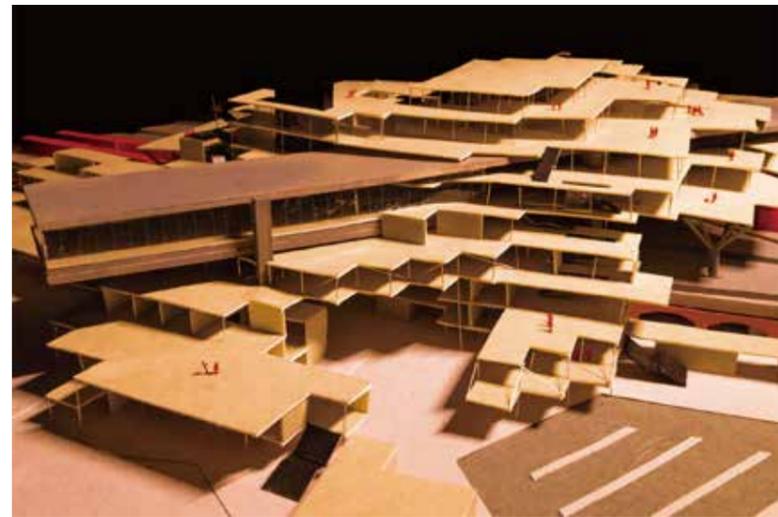


There used to be a black market in Shimbashi, which appeared for "to live".



The liveliness there is called "SAKARIBA" and has developed as a base for people's lives, and it still conveys its remnants mainly in the basement of New Shimbashi Building and Shimbashi Ekimae Building. However, the area including these two buildings is currently designated as a special urban regeneration zone.

In the process of changing the city of Shimbashi, there was a system that was easy to metabolize at the Teekiya in the black market after the war. A system that can be easily constructed and whose form can be easily changed is easy to adapt to any era, and its outer shell is what makes Shimbashi unique / lively. In a peace-filled city, we will re-establish a red-light district in a place close to everyday life and propose a "SATOYAMA" to inherit.



盛る新橋“郷山”

太田優人 日本大学 / 理工学部 / 海洋建築工学科



2022 奨励賞

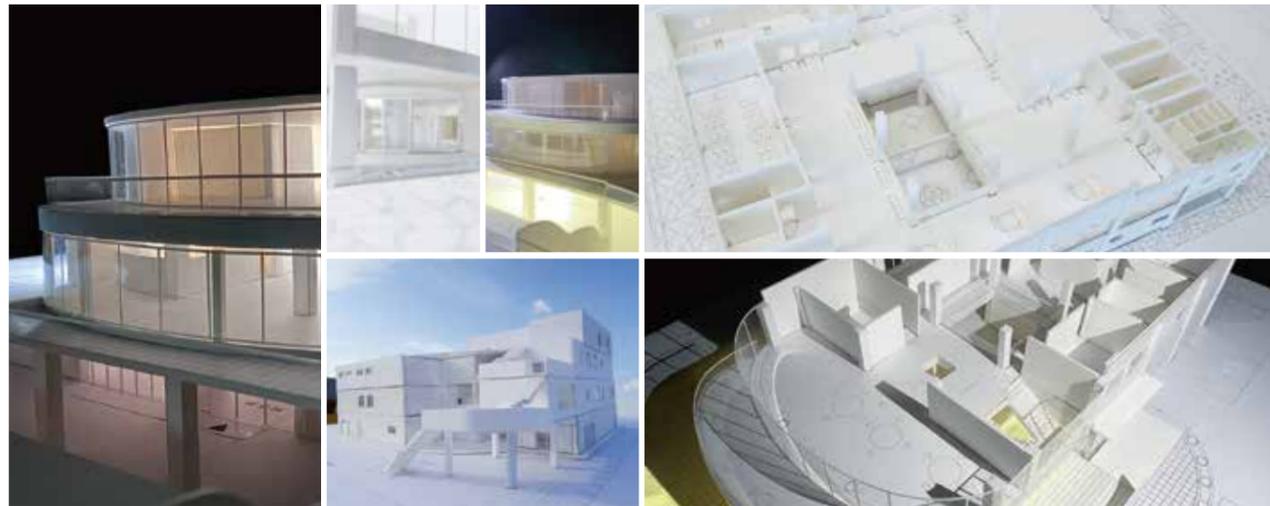
かつては“生きるため”に登場した新生マーケット、ヤミ市が新橋にはあった。そこでのにぎわいは「盛り場」と呼ばれ、人々の生活拠点として発展し、ニュー新橋ビル、新橋駅前ビルの地下を中心に今もなおその面影を伝えている。しかし、この二棟のビルを含むエリアは現在、都市再生特区に指定されている。新橋という街が変わっていく過程で、新陳代謝しやすいシステムが戦後ヤミ市のテキ屋にあった。簡単に施工でき、形態の変更が簡易的なシステムはどの時代にも合わせやすく、その外殻こそが新橋らしさ／新橋のにぎわいである。平和に満たされた都市で、日常に近い場所に再び盛り場を起し、継承する“郷山”を提案する。



審査員 小島広行

新橋駅周辺のメタボリズムのシステムの在り方と再生方法の提案であり、ダイナミックな発想と、そこで行われる人々の行動が知らずうちに呼応可能な提案として評価された作品である。構築手法としては、戦後の闇市からの歴史的背景を読み解き、再開発されて行く現状に一石を投じる新陳代謝システムというプログラムが評価できる。新橋らしさの在り方を数々検証し、レイヤーとして組み重ねて行く手法は、楽しみながら設計する姿が浮かんでくる。レイヤー的表現に留まらず建築的な表現が出来たならば、さらに高評価が得られた秀逸な作品である。人間の在り方を提案ができる作者は、今後の建築界を担う存在となるだろう。

第34回千葉県建築学生賞
建築学生賞高校生の部



心を結ぶコミュニケーションセンター

飯竹希依
千葉県立市川工業高等学校 / 建築科

No. 02

昔に比べて最近では、ご近所付き合いなどの地域の人と人との関係が希薄になり、同じ町に暮らしていても互いに干渉しないことが当たり前になってきてしまっている。
そのため、例えば災害時など地域住民の助け合いが必要な場面では連携が取れず問題が生じてしまうだろう。
だからこそ、地域住民はもちろん、様々な人々に関わりを持てる開放的で気軽に立ち寄れる心が癒されるような空間をつくり、多くの人が安心できる、心つながるコミュニケーションセンターを計画した。



心にゆとりをもたせる公民館

伊藤天思
千葉県立市川工業高等学校 / 建築科

No. 01

現在、コロナ禍の生活でいろんな制約や制限があり、ストレスや心にゆとりがもてない時がある。そのため、これまでになかったような工夫やサポートが必要とされている。そこで、老若男女が集う「心にゆとりをもたせる公民館」をテーマにした。1階から3階までのガラス張り、吹き抜け空間、空に通じる屋上のスカイウィンドウ(天窗)。公園で遊ぶ子供をみながら自然を感じる休憩所。広場の緑をみながら一息つける喫茶店。各階に設けたパーソナルスペースがとれるカウンター席。外部の自然を感じながら、静かに時間が流れる図書館。どこでも休めるための廊下の丸いソファ。解放感もて、景色を楽しめるエレベーター。各種のイベントに使えるスペースのある多目的ホール。ファサードもインテリアも心がゆとりをもてる公民館。

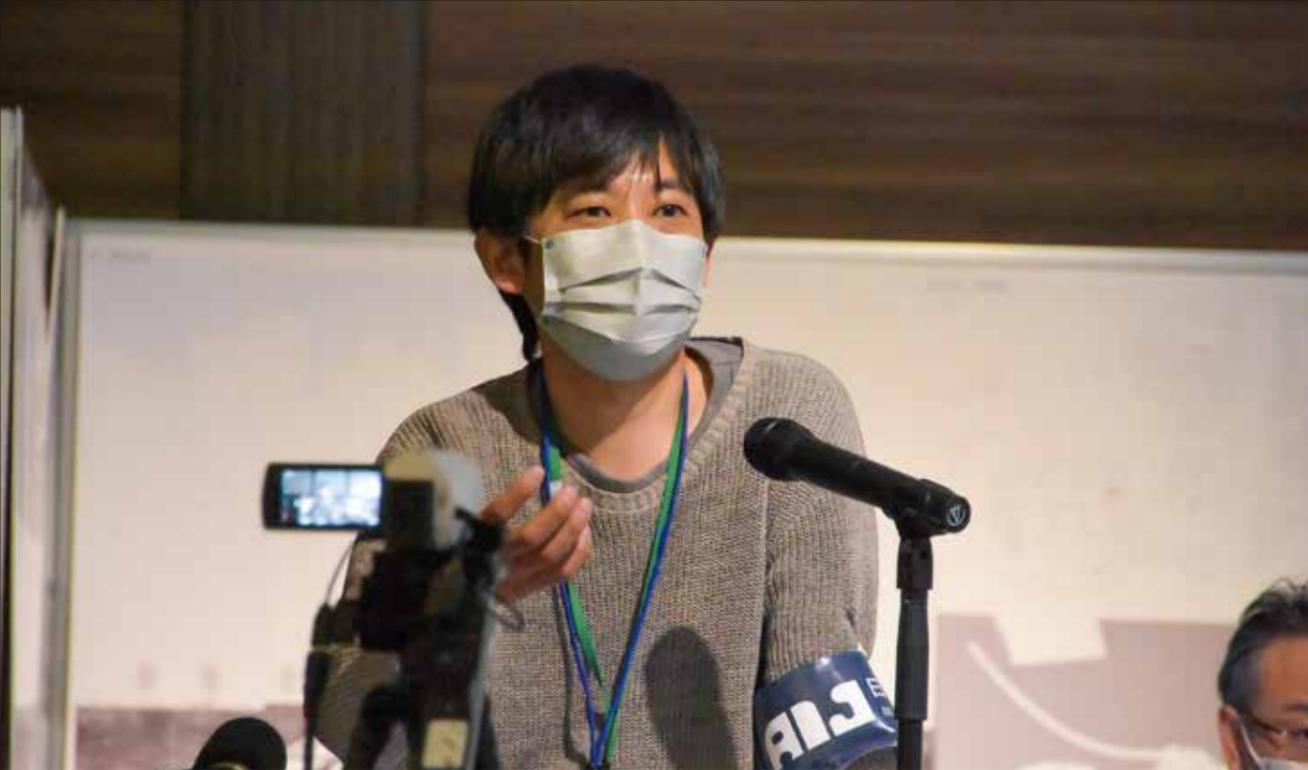


つながり 思いやりをうむコミュニケーションセンター

井上真名人
千葉県立市川工業高等学校 / 建築科

No. 03

近年、少子高齢化が進んでいる。
高齢者が増えている今、若者や同世代の他者との交流を望んでいる高齢者は少なくないようだ。
開放的な空間は、閉鎖的な空間に比べ、会話がしやすくなり、安心感が生まれる。
その結果、気軽にコミュニケーションが取りやすくなる。
開放的な空間を設けそこに交流スペースを配置することによって、高齢者同士または高齢者と若者のコミュニケーションを増やし、よりお互いを思いやれる地域社会へと発展させていくことができるだろう。



第34回千葉県建築学生賞 審査経過

中野 正也 (なかの まさや) 審査コーディネーター

第34回千葉県建築学生賞の審査は、イオンホールにて公開かつ対面形式で実施した。昨年よりも多い全19作品の出展があり、プレゼンパネルと模型展示、発表は審査員の前でスクリーン投影にて行った。

例年と同じく公正な審査を行うべく所属の大学名は伏せた上で、審査員及び出展学生による対話と討議を重視し、できるだけ丁寧な審査を心がけた。

また昨年同様、会場に足を運べない方へ向けてYouTubeでのLIVE配信を行った。

【プレゼンテーション及び質疑応答】

全19作品の出展学生が説明5分及び質疑応答4分の持ち時間で各自プレゼンをおこなった。

【一次審査：19作品から9作品を選出】

まず最初にプレゼン及び質疑応答や会場の展示作品などの印象から各審査員による投票を行った。(審査員は推し作品に2点、その他の作品に1点の配分で投票)

投票結果を踏まえ、審査員によるディスカッション・推し作品の(応援)説明などを行い最終的に以下の9作品を二次審査に進めることとなった。

一次審査通過作品

No.2 「石積み道の道標」	得票数: 14
No.4 「仙台平野の屋敷林イグネのこれから」	得票数: 11
No.7 「可変的な避難所の提案」	得票数: 10
No.9 「谷に繰り出す」	得票数: 12
No.10 「第20次卸売市場整備計画」	得票数: 10
No.13 「都市を耕す」	得票数: 12
No.14 「神楽の降下橋」	得票数: 13
No.15 「策ス切断、拓ク街」	得票数: 11
No.16 「無意識の変化」	得票数: 13

【二次審査：一次審査を通過した9作品から4作品を選出】

各審査委員から投票した作品の評価する点と逆に投票していない作品に対する評価・共感できなかった点や惜しまれる点などを解説・発言してもらった。

それによって各審査員の視点や評価のポイントが明確化し、また多少の票の揺れ動きが生じ、各審査員が推しの3作品に対し10点の持ち点を自由配分で投じる投票を行った。(点数配分はひと作品に最大で7点とする)

以下の4作品で最優秀を決める三次審査に進むことになった。

二次審査通過作品

No.2 「石積み道の道標」	得票数: 15
No.9 「谷に繰り出す」	得票数: 7
No.15 「策ス切断、拓ク街」	得票数: 7
No.16 「無意識の変化」	得票数: 11

【三次審査：最優秀・優秀の3作品を選出】

各審査員が最優秀に相応しいと思う1つの作品に投票を行った。

投票の結果、以下の得票数となった。

No.2 「石積み道の道標」	得票数: 2(関谷、向後)
No.9 「谷に繰り出す」	得票数: 1(河内)
No.15 「策ス切断、拓ク街」	得票数: 1(田邊)
No.16 「無意識の変化」	得票数: 3(河原、小島、桜井)

この時点で審査員全員の評価と照らし合わせ、No.16の作品を最優秀賞とすることを、審査員の合意で決定した。

続いて優秀賞2作品の選定については、ふたりの審査員が推し作品として評価をしているNo.2の作品をまず決定した。もうひと作品について、No.9とNo.15とで、全審査員による挙手投票にて決めることとし、No.9の作品を優秀賞のふた作品目に決定した。

最優秀賞

No.16 「無意識の変化」 佐藤 有希子

優秀賞

No.2 「石積み道の道標」 清水 杏
No.9 「谷に繰り出す」 小林 真子

【特別賞の選出】

特別賞については、三次審査に残ったNo.15の作品をまずひと作品とすることとし、残りのひと作品を出展全作品を対象とし、審査員による協議により、以下のふた作品を特別賞とした。

特別賞

No.10 「第20次卸売市場整備計画」 小山大輝
No.15 「策ス切断、拓ク街」 山田光輝

【JIA全国大会出展3作品の選出】

最優秀賞及び優秀賞の上位3作品をJIA全国大会出展とすることを審査員全員で協議し決定した。

なお、その他の賞として以下の作品を選出した。

JSCA賞：日本建築構造技術者協会から出向の審査員が選定する賞
No.14「神楽の降下橋」谷口 真寛

～開催を終えて～

昨年に続いてコロナ感染未終息状況下、各大学では今でもまだオンライン中心の卒業設計講評会となっている中、コロナ前と同じ、公開でかつ作品展示も行った上での対面形式での審査会が実施できたのは、実行委員及びさまざまな関係者の皆様にご尽力いただいて実現した審査会である。

感謝したい。また、都合により会場に足を運ぶことができなかった皆様にも審査の様子をお届けできるようにYouTubeでのLIVE配信も実施し、多くの方に見ていただける審査会が実現できた。冒頭に述べた、審査員及び出展学生による対話と討議を重視しできるだけ丁寧な審査を心がけたつもりではあるが、その結果に悔しく納得できない思いをした学生もいるかと思う。しかしながらこの千葉県建築学生賞に参加できたこと、そのことを誇りに、また悔しさをバネに今後の進路の中でまた大きく羽ばたいてほしいと切に願います。

中野 正也



千葉県建築学生賞歴代出展者の会 **なの花会**

「なの花会」は2009年6月に設立されました。「なの花会」では、千葉県建築学生賞の運営サポートとして審査委員および審査コーディネーターの派遣、大会公式ポスターの作成をはじめ、建築視察の報告会や勉強会、メンバーが設計、関係した建築作品の見学会などさまざまなイベントを通じてメンバー同士の交流を深めています。

「千葉から果立つ学生にエールを送る」という趣旨で設立された千葉県建築学生賞の益々の発展を祈念するとともに、「なの花会」がこれからも価値ある人と人との繋がりを育む場となるよう引き続き活動していければと考えております。

今回出展者は皆が「なの花会(出展者の会)」のメンバーです。これからも「なの花会」は、大学や世代の枠を越えた人と人との豊かな繋がりを創造し、幅広いメンバーの交流の場となることを目指していきたいと思います。

第34回千葉県建築学生賞 なの花会賞 第20次卸売市場整備計画
No.10 小山 大輝さん 東京理科大学理工学部建築学科

「なの花会賞」は、第27回大会に設立されました。千葉県建築学賞に出展したOB・OGで構成する「なの花会」のメンバーが公開審査会当日に発表を公聴したり作品を見たりし、審査会終了後に投票・討議して決定する賞です。過去に出展した経験をもつからこそ感じ取れるもの、出展学生に近い立場にあるからこそ見えてくる視点で次世代を担う長く語り継がれる作品を発掘しています。

第1回出展 なの花会会長 岡松 利彦

レビューに参加した感想

出展者OB・OGで構成される「なの花会」のメンバーが中心となり、公開審査後のレビュー会が行われた。公開審査での評価とは違う視点で、各作品の価値をさらに深掘し、作品にかけられた時間や思いを感じるための、有意義な時間となっていれば幸いです。

数年、卒業設計を見ていると時代の変遷や自然災害、様々な社会課題に対して、学生は敏感に反応しながら卒業設計を通して表現をしていることに感じています。特に、今年好感が持てたのは、地方の社会課題に向き合いながら、建築のちからで魅力的な日本の未来の風景をつくるような複数の作品でした。このように卒業設計を通じて、向き合った課題やその時の思いを忘れず、社会の中で実装して欲しいと考えています。出展者の皆さんの今後の活躍を期待しています。

佐々木 達郎

レビューを振り返って

全作品を通して驚いたことは、どれも探究心があり巧みな文や説明図を作成してしっかり主旨を組み立てていることである。遠い昔の自分が学生の頃と、全く比べものにならないくらい、付け入る隙を与えず緻密でしっかりしている。確かに目標を掲げて説明的に建築にのぞみ、結果として設計の中でうまく形に繋がればそれが望ましいとは思いう。しかし観点を真っ当に、正統的に論を進めようという姿勢は、時には逆に縛られ、建築の魅力を引き出すことが難しくなることもある。このような見方で見ると、なの花会賞に選ばれた小山さんの作品は、既存の建築を利用して暗闇の中に人の集う大きな、迫力ある生きた空間を作り出し、空間の魅力が際立っていたと言えるかもしれない。

歳をとっても卒業設計の作品を見るとそこには面白さや驚きがあり、新鮮で刺激になる。出展者の皆様には益々の研鑽と飛躍を目指していただきたい。

佐久間 達也

10. 第20次卸売市場 小山さん「第20次卸売市場整備計画」に投票します。

その建築を取り巻く社会環境に応じて5年ごとに計画を見直すという前提が、複雑化する社会において未来図の責任を建築家だけが担うことを諦めるべき、という批評的態度表明でありながらも、過剰なスロープというレベル接続機能を付加する確かな建築行為が戦略的(確信犯的)DNAとなり、50年後の良き都市空間を予見する、というバランス感覚が現代をとらえていると感じました。

建築が延命のため段階的に人々の生活環境を取り込むことで、魅力的な都市空間が生まれるという物語は切なくて美しく、その案地が市場のような特殊空間であることは、50年後のアニメラスでない固有性のある都市風景を想像させます。

馬場 亮平

1. 通り集まる団地 今村さん

・(佐久間)底の回廊は高さによって影の感じ方が違ってくるとの高さを丁寧に考えるといい。
 ・(佐々木)空き家、団地の住まい方の変化に対する答えがあった方がよかった。外だけでなく、中身(抜けている)」ところを計画すると良かった。

2. 石積み の道標 清水さん

・(佐々木)建物の美しさが評価できる。石積によって環境に対して何が生まれるか。石積みに対する質の側面を見なくてはいけない。
 ・(佐久間)現実には裏動線の計画が必要だと思う。
 ・(岡松)石積みの特性を活かす計画のがあると良かった。

3. 多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間 吉田さん

・(佐々木)最終的な機能がカフェなのももったいない。敷地全体を使うような面的な展開、発展性があると良かった。ストラクチャーが大きい。待ちにできることで何が起るかが見たい。アフォードの意味を建築に落とし込むこと。
 ・(佐久間)メッセージ(格子)に密度の変化をつけるなど、空間からもっと考えると良いと思う。

4. 仙台平野の屋敷林イグネのこれから 竹村さん

・(佐々木)イグネの町全体での循環を可視化できればよかった。イグネ文化の見直し。空間軸が短い、防風林の役割が表現できていればよかった。
 ・(佐久間)防風林によってファサードが見えにくくなり内側に空間が作られることを表現するとよかったのでは。
 ・(岡松)イグネがなくなっている現状があり、その「何故」を明確に示し、この建築でそれをどのように解決できるかが見たかった。

5. 新たな「緑」をつくる立体広場 横山さん

・ヒューマンスケールをどう埋め込むかが難しい。・居場所のつくり方がざっくりしている。
 ・プログラムの設定が大胆。・どこに建てても楽しい空間ができることは分かるが、もっと立体感があるともっと楽しくなったと思う。
 ・(佐久間)楽しそうだと思う。

6. 牡蠣と竹と生きる島 坂倉さん

・(佐久間)竹の筏や立て掛けた竹だけですでに建築の風景となっている。本体が主張していないところが良い。・リサーチがしっかりしていると思う。・ストーリー性がある。

7. 可変的な避難所の提案 小松さん

・新しい風景が生まれる感じがある。・避難ユニットが建物に組込まれていて普段から使われているのが良い。
 ・(佐久間)図面の表現が良い。

8. 閉鎖から解放へ 兵藤さん ※レビュー時に学生が居なかった為なし

9. 谷に繰り出す 小林さん

・ここ最近見られなかった卒業設計の感じがする。・渋谷の町に中心が作られなかったのか。
 ・水を見せるのが重要では。・谷をつくるのが渋谷の場所性を表現することに繋がるのか少し納得がいかない。・面白い空間をつくるという事で卒業設計として評価できる。
 ・(佐久間)中心性や水を使うことが、何か神聖な場所を作ろうとしているように感じる。

10. 第20次卸売市場整備計画 小山さん

・長い時間を設計のアプローチにしている。・既存躯体をあと50年使う決断。・50年の変化の中で、町との関わりを表現しても良かった。50年経ったら町も変化しているので。
 ・(佐久間)リノベーションの目指す空間は、現在の市場の持つ空間から離れてもっと明るい雰囲気を目指してはどうか。

11. WWW.H2O.com ---水の博物館--- 福田さん

・(佐々木)建築をつくと沼と建築が分断されているように見える。
 ・(佐久間)階段を降りていくところなど細部を丁寧に表現すると良い。

12. 地域に根付く減災橋 市原さん

・長い時間を設計のアプローチにしている。・既存躯体をあと50年使う決断。・50年の変化の中で、町との関わりを表現しても良かった。50年経ったら町も変化しているので。
 ・(佐久間)トラサがあるところなどいいところがあり気になる。

13. 都市を耕す 軽部さん

・(佐々木)世田谷など農地が沢山あるので体験農地としても機能するのかなと思った。先のビジョンとしては良いがもっとリアルな部分をどう展開していくかがテーマ。
 ・(佐久間)断面パースが丁寧に書かれていて良い。

14. 神楽の降下橋 谷口さん

・地域と橋との関わり方があって良い。・すごく迫力がある。・神楽(神さま)をテーマとして建築しているがそういうものを卒業設計で計画しているところが素晴らしい。
 ・(佐久間)とてもしっかりデザインされている。

15. 策士切断、拓ク街 山田さん

・(中野)切断されて現在の機能が保てなくなったときに奥の建物がどの様に影響があるか。奥でものがどう関係するかが見たい。・切断という行為がとても新しいと思う。
 ・切った面をどう扱うか。・切断することによって路地が生まれる。・切った面を手当てして、瘡蓋ができてきて、自分ではどうすることもできないものができていくんじゃないかと言うのが面白い。
 ・(佐久間)アートな作品だと思った。力作。

16. 無意識の変化 佐藤さん

・(佐久間)窓どうし向かい合ったり近かったりが気になる。25のバタンの設定が良い。平面図はしっかり描いて欲しい。
 ・分譲住宅をシェアハウスにしていることで新しい建築をつくっている。
 ・プライシシーの部分はどう設計しているかが知りたい。
 ・パターンラゲージだけで説明できない部分をきっちりと設計しているところが評価できる。

17. 水紡 比留間さん

・(佐々木)地域と産業をテーマとした建築。吊っているワイヤーが舞台装置的。ストーリーが長い。空間的な堅さが気になる。
 ・(佐久間)問題設定から解決まで非常に良く統合されている。少し空間が硬いと思う。

18. えるば 荒木さん

・遊び場なので潜る部分があっても良かった。
 ・スケッチがとても魅力的。それが模型に反映されていれば良かった。
 ・スケッチでイメージしたことをどう作ればいいのかを表現できていればよかった。
 ・もう少し有機的でも良かったのでは。
 ・(佐久間)スケッチが良い。もっと建築に力を入れるといい。

19. 盛る新橋“郷山” 太田さん

・フレームの中に押し込んだ感がある。
 ・(佐久間)自然発生的なカオスを意図的に作ることは難しいが、雰囲気や迫力はある。

10.「第20次卸売市場整備計画」

ふと目にする不思議な建物。下水処理場、卸売市場、清掃工場と都市生活の中では必要不可欠な巨大公共施設。

その違和感に着目し、それを建築的にどう解決出来るかをテーマとした作品。5年ごとに計画を見直しながら20回というとても長いスパンの計画を段階的に表現し丁寧に計画されているところが大変共感できる。

今後、今までは違うスピードでインフラや情報の発達とともに市場自体の機能が変化していったとしてもそれにその都度対応できる新たな手法が提案されている。卒業設計として作者の「夢や冒険」長編小説のようなロマンを感じた。流通手段もドローンの時代で、市場もネット環境などの発達によって生産地が拠点になるのでは。そのような未来を想像、創造した計画も感じられると良いなと思った。

1. 通り集まる団地 今村さん

・既存建物との関係性が見えなかったのが残念。・建物の新旧の融合、化学反応みたいなものが感じられるともっと良くなると思う。

2. 石積み の道標 清水さん

・建築からどの様な景色が見えるかに興味がある。建物からのビューがパースで表現されればよかった。・石垣と建物のデザインの一体性が疑問。・石垣という材料の特性を活かした。例えば、風が抜ける。空気が抜ける。光が漏れる。蓄熱できるなどがデザインされていれば良かった。
 ・建物へアクセスする経路もデザインしても良かった。

3. 多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間 吉田さん

・この建物が置かれることによって生まれる効果が見えると良かった。・公園の中で主張するのはなく、埋没(?)するような感じになると良かったのでは。

4. 仙台平野の屋敷林イグネのこれから 竹村さん

・計画の起承転結、各フェーズで丁寧に計画されていて良いと思う。・エネルギー、用途などイグネをキーワードに計画されている。・各建物に魅力(特徴)が乏しいのが残念。
 ・間伐を利用して小径木や大断面の集成材を使わないなどで構造デザインを説明すればもっと形態に意味がでると思った。

5. 新たな「緑」をつくる立体広場 横山さん

・町に面する立面と町との関係性が見たかった。・既存建物の用途、室との関係性を新しい建物にも積極的に組み入れると良いと思った。

6. 牡蠣と竹と生きる島 坂倉さん

・日本では竹を構造材として使用した建築が見られないが、海外では積極的に竹を使った建築が多くみられる。・竹の構造的に優れた面をもっとアピールできると思う。
 ・高層建築の竹の足場やインドネシアのバンブーハウスなどが参考になったのでは。
 ・海に浮かぶ構造物や鉄骨の構造体に違和感を感じた。・潮の満ち引きによって建物の形態が変化するような仕掛けがあっても良かったのでは。・牡蠣の殻を建築の材料に取り入れているところは共感できた。

7. 可変的な避難所の提案 小松さん

・シェルターが建物に組込まれているのはとても面白いと思う。・シェルターと同じくらい公民館隣の建物も計画されているのもっと良くなったと思う。・平時と災害時の敷地全体の使われ方の変化などの表現があるともっと良かった。

8. 閉鎖から解放へ 兵藤さん

・オープンなクラスルームのメリットとデメリットをどう考えているかを表現できると良いと思った。
 ・パースに人が入っていないのが残念。・日常の居場所をもう少し計画されていると良かった。
 ・屋内と屋外の関係性が説明されていると良かった。

9. 谷に繰り出す 小林さん

・水との関係性、水と建築との関係性の説明が欲しい。・水辺空間が見えない。・卒業設計として、テーマ性や作品のレベルは秀逸だと思う。

11. WWW.H2O.com ---水の博物館--- 福田さん

・内部から手賀沼の風景が見えるシーンが素晴らしいと思う。・手賀沼との関係を来館者が様々な形で実体験できるスペースがあると良かった。・建物が一つだけでなく、水の駅の様な小さな建物もあってアプローチも船で行けるなどあればどうか。

12. 地域に根付く減災橋 市原さん

・積極的に親水空間を計画しても良かったと思う。

13. 都市を耕す 軽部さん

・Projectの1,2,3の繋がりも見えたかった。

14. 神楽の降下橋 谷口さん

・地域を結ぶ神楽の舞台という機能的に面白い建築だと思う。・機能が面白いので建築ができた先の世界が見たいと期待してしまふ。・模型が緻密でエネルギーを感じる。

15. 策士切断、拓ク街 山田さん

・切断面の両側、計画道路を挟んだ反対側との関係性が見たい。

16. 無意識の変化 佐藤さん

・とても面白い提案だと思う。・実際の計画としてもすぐにでも役立つような考え方。
 ・3つの計画の提案以外に25箇の無限の組み合わせを考えられて楽しそう。そのように思わせる表現があると良かった。・柴又地区だけでなくほかの地区でも応用できるのかなと思うのでその様なイメージだけでも表現されていればよかった。・地域ケアに特化した自作パターンラゲージに感心した。

17. 水紡 比留間さん

・紡ぐというキーワードから織機り機をイメージして作ったのかな。最初柱が多いな感じたがそれなら少し理解できる。・地下水を汲み上げて建物の中に流すだけでなく、それを積極的に空間やデザインにに入れても良かったのでは。

18. えるば 荒木さん

・5つのキーワードを組み合わせて空間を創出していく。・この地域、街並みのスケール感と会っているか少々疑問に感じた。・丁寧に子供の為の空間、居場所が計画されていて良いと思う。

19. 盛る新橋“郷山” 太田さん

・内部の事について多く語られている反面、外部との繋がりが。線路東西の繋がりなどの表現があまり見えてこない。・メタポリズム的なイメージを感じたが実際に増殖や新陳代謝が可能なか知りたかった。・自然発生的に生まれた市町の雑多性がもう少し欲しかった。

岡松 利彦

7. 可変的な避難所 小松さん

理由:
 ・災害が起きたときに避難所→仮設住宅と制度的、一時的な対応が生まれてしまうなかで、更新するシステムを考えることでそれらをうまくつなげ、人々の居場所をうまく提案できている案だと感じました。日本はもちろん、世界でも災害が起こる中でシェルター=建築は我々が向き合う課題の一つですし、ビニールハウスから着想を得たシェルターの形が、最後ビニールハウスとして使われても良い、というようなストーリー性にも魅かれました。
 ・パブリック空間を作る上で様々な展開もできそう、という可能性も踏まえて上で推薦します。

1. 通り集まる団地 今村さん

・角地に立つ集会所は魅力的な空間になっている。
 ・バーゴプロムナードが大きくなって印象。団地全体としてバランスのある計画にできると良い。
 ・施設活用プログラム、ソフトの提案が伝わると思う。

2. 石積み の道標 清水さん

・山の谷部のみでなく、山頂部や登山ルートの他のエリアに一部分棟があるなど、山全体を楽しめると尚良い。・計画地と他の集落との繋がりの計画や説明があとと良い。
 ・地域の人々はこの施設をどう活用し、登山者との関わりが生まれのか、の説明が丁寧にされると良い。

3. 多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間 吉田さん

・BOX型の建築が最終的に強すぎ、硬い印象。・設計イメージであるジャングルジムの楽しさを感じないので、身体性に訴えるシステムがあると良い

4. 仙台平野の屋敷林イグネのこれから 竹村さん

・それぞれの建物が丁寧に設計されていて良い。・選定敷地はイグネが残っていて魅力的な計画になっているが、敷地周辺のイグネが残らない敷地でどう提案できるか、地域全体がどうなっていくかの提案が見えると良い。

5. 新たな「緑」をつくる立体広場 横山さん

・内部空間、プランが魅力的。・外部空間に高低差を設けたり、屋根に上れるなど、より立体的な活用ができると良い。

6. 牡蠣と竹と生きる島 坂倉さん

・既設によって風景が変わるのは面白い。・竹のみで作る大空間空間にできると良かった。構造的な制約はあるが、そこに踏み込んで提案があると強い案になっていたはず。

7. 可変的な避難所の提案 小松さん

・避難所→仮設住宅の境界を取り扱う提案が良い。他のパブリック空間としても活用できそう。・連結部の各種が気になる。例えば、雨を集水して利用することや、もしくはオフグリッドの自立型のシェルターとしての機能が持たせらえるともり良い。

8. 閉鎖から解放へ 兵藤さん

・各所に提案された内部空間が魅力的。丁寧に設計されている。・建物のファサードが閉鎖的になっているので、建物外周部においても解放感が出ると思う。

9. 谷に繰り出す 小林さん

・斜めに切り出される建物と、その操作を付与されていない建物との差が気になる。もっと他の建物含めて切り取るデザインができると良い。スクランブル交差点部をあえて掘りこまなくても、谷としての表現はできそう。=今のスクランブル交差点の魅力を残しながら開発を行う。

10. 第20次卸売市場整備計画 小山さん

・部分的な増築のみならず、50年後の建築の魅力を伝えるビジョンが提案できると良い。

11. WWW.H2O.com ---水の博物館--- 福田さん

・建物から手賀沼を望むだけでなく、GLに近いレベルでの浸水空間を表現できる良かった。・計画した建物が象徴的過ぎてしまうので、手賀沼の自然と建築が豊かに調和するような形態だと良い。

12. 地域に根付く減災橋 市原さん

・対象エリアにおいて災害時の動線の少なさという問題があるなら、車両動線を通切に組み込んだものとした方が良い。=川上に人々が集う施設を作るのみでなく、都市交通を取り込んだ流動性を取り入れる提案だと尚良い。

13. 都市を耕す 軽部さん

・提案された個々の建築は丁寧に設計されて魅力的だが、デザインの統一性を与えても良いのでは?
 ・トタン、ポリカなど農業用品を使用のであれば、できる建築ももっとパラック的に作る提案でも良い。

14. 神楽の降下橋 谷口さん

・地域全体と橋との関わりかたが丁寧にされると良い。・神楽が行われていない、催事以外での使われかたはどうなるか?日常時において降りることの空間性が説明できると尚良い。

15. 策士切断、拓ク街 山田さん

・できあがった空間は魅力的だが、既存建物を切断する際に、魅力的な部分として見える部分だけ切り取られていないか?切断されることで不合理が生じる建物に対してはどういう提案がされているかの説明ができると良い。

16. 無意識の変化 佐藤さん

・出来上がった空間がさりげなく、かつ魅力的と感じられる手法が秀逸。

17. 水紡 比留間さん

・完成度が高く、良い建築。地域とのかかわりの説明は良いが、最終的に水を感じないプレゼンとなっているのが惜しい。

18. えるば 荒木さん

・部分部分が丁寧に提案だが、建物の全体としてどう活用されるか、どういう建築なのかの説明できると良い。=子供の身体性を喚起するような、もっと大胆な建築でも良かった。

19. 盛る新橋“郷山” 太田さん

・昼間はどのような魅力的な場になっているか?盛り場としての夜のイメージだけでなく、昼と夜の差を見せるプレゼンだと良い。・プレゼンテーションだと盛り場=飲み屋的なイメージが強いので、新橋界隈で大切なオフィス空間としての魅力を出せると良い。

皆川 拓

市民の声 市民アンケート集計結果

これは来場者から頂いた貴重な声です。これからの糧にしてください。
●アンケート数…1日目:50 / 2日目:56 / 総数:106

作品番号	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	18.	19.
		優秀賞							優秀賞	特別賞				JSCA賞	特別賞	最優秀賞			
					市民賞					女の子賞				特別審査委員賞					
美しくきれい	12	17	12	20	19	6	2	4	13	3	8	9	12	20	6	5	14	6	8
迫力がある	1	13	4	6	7	3	4	0	13	8	6	9	2	22	6	2	11	1	14
独創性がある	0	8	6	6	8	7	7	0	8	9	6	8	5	16	12	6	3	2	9
テーマや発想が面白い	8	13	16	12	10	14	10	5	14	11	12	10	13	11	19	8	9	10	10
説得力がある	4	3	5	9	3	5	5	4	1	8	4	7	6	55	4	7	2	4	2
※複数回答 小計	25	54	43	53	47	35	28	13	49	39	36	43	38	124	47	28	39	23	43
デザイン性に欠ける	1	2	1	1	1	2	1	3	1	2	2	0	1	0	2	1	0	3	0
インパクトが弱い	7	2	3	1	0	0	2	6	0	1	1	0	0	1	1	51	0	2	0
独創性に欠ける	4	2	2	1	1	0	1	5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1
テーマや発想に共感できない	2	1	2	1	0	1	0	3	0	0	1	2	2	0	0	1	0	1	1
説得力が弱い	5	0	2	1	0	2	2	3	1	0	3	2	3	0	1	1	0	2	3
※複数回答 小計	19	7	10	5	2	5	6	20	3	4	8	5	7	1	4	54	0	9	5
計	44	61	53	58	49	40	34	33	52	43	44	48	45	125	51	82	39	32	48
※2日間の集計結果 ★あなたの最も好きな作品	1	14	1	5	11	3	2	1	12	4	2	3	5	14	3	3	11	1	7
市民賞投票結果(3/12投票)	0	6	0	2	8	2	2	1	5	1	0	2	3	7	1	0	6	0	3

1.	2.	3.
12	8	14
4	2	5
2	3	7
6	3	10
5	8	5
29	24	41
2	1	1
3	4	2
1	4	1
1	1	1
0	0	1
7	10	6
36	34	47
26	17	47
12	9	25

第34回千葉県建築学生賞 建築学生賞 大学生の部

1. 通り集まる団地

模型をもっと丁寧に(60代) 模型が簡単すぎる(60代男性) 現実と予算の間で悩むテーマだが、問題意識を持ち積極的に取り組んだのが素晴らしい。(50代男性) とても敷地面積が広いので、エスカレーター式の歩道などがあってらな住みやすかろう。(40代男性) 「場所」を作るのは良い。あとは人間の問題、公道の横の歩道は、人との関わりが増えそうで良い。(50代女性) 一人暮らしの高齢者を対象としているところに託児所を設けることで子どもは遊んでもらえるし、大人も楽しめるから良いと思った。(10代男性) 楽しい計画だと思います。団地の住居部分も計画に組み込んでくれた。(60代男性) こういう団地があったら内見してみたい。URと少し似ている感じがする。(→) 非現実的、すぐ廃れる。(50代男性) 人が集まるカタチが自然に計画されていた。(10代男性) 住んでみたいと思った。(10代男性) ボードが見やすかった。(10代女性) アンケート調査などをして、どのような事に必要性を感じているのかという視点からのアイデア良いと思いました。(50代女性) 屋根のカタチを複雑にすることで、アクセントのある作品になってって良いと思った。(20代男性) 住居空間の具体的な説明が欲しい。模型表現の表現△(20代性)

2. 石積みの道標

楽しい試みですね。回りの歴史的な建物と石積みの成り方の観察をよく活かせるのもっと良くなると思います。(50代男性) 図面も模型も素晴らしい!商空間が沢山あると、そしてもっと収容のあるスペースがあるとこの景観なら沢山の人が行きたくなるスポットになると思います。駐車スペースはあるのかな? あると行きたい。(50代男性) マチュピチュぽて好き(40代男性) 石垣良い! 楽しい。作るの大変。(50代男性) コンクリートの建物が増えるなかで石を生かすのは良いと思った。高齢者が多そうだから、階段が少ないと移動しやすいと思った。(10代男性) しっかり考えられた計画だと思います。山-建築-石垣の関係性が新鮮です。(60代男性) あったら行ってみたい。(→) 自分が関係したいかと言われると、NO。(50代男性) 土地をうまく利用して、人の動きを導程したい。(10代男性) 道力がとてもあった。石積み建築がとても良かった。(10代男性)模型が凄くインパクトがあった。(10代女性) 登山をする人が増えている中で(50代女性) 石積み風景が多く残る町で育った私にとってとても親しみが湧きました。(40代男性) 地形を作成するのに大変な時間を使っただけでそれだけでキレイで鮮やかだった。(40代男性) 迫力ある(20代)

3. 多義的アフォーダンスを楽しむカフェ空間

子ども目線で、登りたくなる。親が子どもを連れて行きたくなる。運営まで踏み込んでいるのが大切だと思います。(50代男性) 雨。実際に行きたい。(40代男性) 開放的なのは良い。雨風がしのげればなお良い。(50代男性) 様々な使い方ができるのがステキだと思います。個室スペースを作って一人で本とかを楽しむようにすると良いと思った。(10代男性) このような建物や、公園全体に沢山配置して、それぞれプログラムを変化させていったらもっと楽しいと思います。(60代男性) 自由に使える空間が多くて、自由度が高そう。(→) 日陰がない 虫が出そう。コケやカビで汚くなりそう。(50代男性) デザイン性が目立つ中で、暮らすための配慮が少し疑問に残った。(10代男性) 落ち葉を集める所の多様な使い方もとても感心した。(10代男性) 発想が凄く面白かった。(10代女性) 冬の焚き火は危ないと思いました 足場がとてもよかったのかも 冬は風が強くて建物に近すぎると思いました。雨の日とどーするの? (50代女性) 利用者が自分で考えて使えるという発想が良い。全てを木の格子にしないで、所々を格子にするデザインがよかった。(40代男性)

4. 仙台平野の屋敷林イグネのこれから

杜の都の基本である「イグネ」に着目したのがこれからの環境を大切にすべき時代に相応しいテーマだった。(50代男性) インテリアショップの柱が面白い。ぼーっと眺めたくなるカフェにしてみてもいいかも。風が強い日は、煙の砂が飛んでくる。(50代男性) 失われつつあるものを残す方向に進めていくのが良いと思った。イグネだけだと一時的な話題になってしまう気がした。(10代男性) しっかり調査して、よく考えていますよね!社会的な問題に対する取り組み方に好感が持てます。(60代男性) イグネ、というものを初めて知って、活用性を沢山見られた作品でした。日陰をうまく使えば光熱費節約になる。SDGsにつながる。(50代男性) 土地を生かすために、自然との関係を可視化したい。(10代男性) 加工場インテリアショップの小屋組とても感心した。(10代男性) テーマに沿って考えられていた。(10代女性) イグネの着目良かったです。(50代女性) イグネという着眼点とても良いが、イグネの存在定義は本当に「木」だけなのか? (20代男性) イグネに着目したのが面白い(20代男性) 美しいと思った。(→) 柱と木をデザインのモチーフにしていた良かった。(40代男性)

5. 新たな「緑」をつくる立体広場

Rって難しい取り組みとなるデザインですが、その設計を行うプロセスが明示されているのが素晴らしいと思いました。(50代男性) 曲線が楽しい。迷路っぽさが良い。こういう場所は、楽しいが一番だね。(50代男性) 模型がとても良かった。色使いが素敵だなと思った。(20代男性) 大きな広場や、図書館など様々な世代の人が利用しやすいそうだったと思った。(10代男性) 曲線で構成された内部空間がとてもステキです。既存施設には対応してませんが、街に対して弱いかも? (60代男性) サードプライスの重要性を感じているので、ぜひ打瀬以外にも!!曲線空間、可愛いが発想がこちゃつかないか気になる。(→) 広場はこのままでは使われな。誰が使うのか想定されていない。全面緑でなくても良いのでは。(50代男性) 自然光とプライベートが守られているかどうか気になる。(10代男性) 曲線が交わり合って空間が形造られていて感心した。(10代男性) 丸を多く使っていることもあり、暖かい雰囲気があって凄良かった。(10代女性) 模型が丁寧で良かったです。(50代女性) 空間としては魅力的 打瀬地区としてのコミュニティのあり方、将来像まで持ち込める良い。(20代女性) クネクネしたデザインは頭を非常に使う中でキレイに納まっている。(40代男性)

6. 牡蠣と竹と生きる島

いい提案だと思います。建物として欲張りずシンプルな構成が良いです。(50代男性) 牡蠣好き!食堂るのが良い。屋根が強風の際心配。(50代男性) 地域の特産物の循環が上手に生かされていると思った。海が近いし、子どもにも人気がありそうだったと思った。(10代男性) よく考えられた案だと思います。リサイクルと建築を結びつけているところが良いと思います。(60代男性) 食堂と解体が一緒に空間にあって面白い。(→) 人を呼びたいのか、プランを作りたいのかわからない。人は来ないし、プランとしては生産性が悪すぎる。小さい山は意味不明。(50代男性) 海の細部まで模型がつくられていて感心した。(10代男性) 緑でなく海をテーマにしていよと思った。(10代女性) 地方ならではの発想で良かったと思います。(50代女性) 竹を利用して牡蠣を育てつつ、竹の良さを伝える 一石二鳥な考え(40代男性)

7. 可変的な避難所の提案

いいテーマです。これからも研究してってください。(50代男性) ボードの字が濃いと読みやすかったです。(20代女性) デザインが面白い。避難所には不向きかな。天井に接続部分があると、雪とかの荷重が心配。(50代男性) 地面と少し離れていると重みが集中して傾いたりしないかと思った。スペースの取り方が面白いなと思った。(10代男性) 工法をしっかり考えていると思います。(60代男性) 新しい避難所の在り方が面白い。(→) 字が見にくい。使いたくはない。デザインありきで人のことを考えていない。(50代男性) 避難所として可変性があるのに感心した。(10代男性) 細かい所まで拘ってて凄いいと思った。(10代女性) 高齢者はどーするの? 自分での組み立て 災害の発想は良いと思うがもう少し何か欲しい。(50代女性) 今までにない独創的なデザインに惹かれた。(40代男性)

8. 閉鎖から解放へ

図書スペースが中央にあるのが良い。人の動きが回転するのは良い。(50代男性) 中庭と図書館が近いから、本を借りてそのまま中庭で読めるのでいいなと思った。(10代男性) このテーマだと流山小学校を超えるといけないうので、テーマ選択がキツかったと思います。(60代男性) 特に閉鎖的な場所だと思うので、こういう開放的な学校に子どもを通わせたい。(→) PC室不要では、TVで見たことありそう。かるく仕切られた方が良いかも。(50代男性) 動線計画をすることで、人の行動が縛られず、自由になるように感じた。(10代男性) 開放的な教室にすることで、強制的に勉強をさせられている感覚を払拭させることが出来る事にとても感心した。(10代男性) ボードが見やすかった。(10代女性) もう少し踏み込んだ発想があればいい。オープンにすることでイジメなどもなくなるのではないかと? もう少し欲しかった(50代女性) 開放的でとても楽しそうな学校だと思う。このような学びの場が欲しいと思う。学校の閉鎖的空間を解決の糸口となるような提案だった。(40代男性)

9. 谷に練り出す

溢谷はいつも迷う。わかりやすいのが一番。(50代男性) 都市から建築をダイナミックに変化させ、スバラシイ! イチオシです!(60代男性) 谷に戻すという発想が面白かった。(→) 歩いている人は谷を感じなくなる。夏は暑くてムリ。上から見たら谷だけど。(50代男性) 都心に対しての在り方が定義されている。(10代男性) 「谷」に車の動線まで交差していて、空気の流れ、光、文化などが考えられていて、とても感心した。(10代男性) 模型が細かくとても丁寧でした。(50代女性) 地下空間のデザインが非常に良い。(40代男性)

10. 第20次卸売市場整備計画

5年の見直ししかあ…早いかね、市場の営業に支障ないかな? (50代男性) しっかり考えられた計画だと思います。施設と街・市民の新しい提案があったらもっと良いと思います。(60代男性) どんどん変わっていく様子が面白い。(→) ずっと工事する建物になるのでデザインとしては○2066年まで工事している感じ×。(50代男性) いくつも計画にブレがなく、未来も変わり続けるカタチに対応していくのがすごい。(10代男性) こんな迫力のある建築物があれば、とても行ってみたいと思う。(10代男性) とても丁寧な作品で良かったと思います。(50代女性) 将来を見据える未来に希望を与えるような計画(40代男性)トラックが上に行けるのがいいと思いました。(30代男性)

11. W W W.H2O.com -水の博物館-

水質改善装置を内から見るといった割り切った提案だったりしたらもっと面白いと思った。(50代男性) 博物館だけではなくて、この建物を通して、水が綺麗になるとも良い。(50代男性) 構造が面白い。(→) 廃れて葛西のガラスの建物のようにメンテされなくなる。人を呼ぶアイデアか、人の役に立つ工夫があるが良い。(50代男性) とても近未来的で、水の中を通れるトンネルなど、とても有名な建築物になると思う。(10代男性) 水の造形のあり方が…(60代男性) この作品が実現したら手賀沼の水がきれいになるのではないかと感じました。(50代女性) 自然の一部である水そのままと展示物に活かす発想が凄い。(40代男性)

12. 地域に根付く減災橋

災害時の利用と通常時の利用の施設デザインのパランスをもう少し深く考えるともっといい形があるかもしれない。(50代男性) 車は通さないのが逆にpointなのでしょうね!逃げ道が必要だと切実に感じました。(50代男性) 確かに、これだけでかけりゃ安心だ。日常も楽しそう。(50代男性) 力強い形だと思います。日常的にもっと楽しい施設になったらより良い。(60代男性) 横浜の大枝橋に似ている感じもするが、インパクトはあった。(→) 被災前提で金は出せない。命を軽視している。(50代男性) 風景としてのあり方…(60代男性) 橋のないところに橋をつくる。減災橋という作品名にも惹かれました。(50代女性) 災害も見越しての計画となっている良い。(40代男性)

13. 都市を耕す

わくわくします。(50代男性) 畑の問題点は、砂埃、風よけはどうなるかな?地産地消は楽しい。(50代男性) しっかりデザインされていて好感が持てます。複数の施設を繋ぐような何らかの手法があったらもっと良い。(50代男性) 住みながら耕すという発想が良かった。(→) 研究所はOK。農業ができる空間という発想から抜け出せていない。(50代男性) 時の流れによって変わっていく土地に対して、それに合わせて可能性を表していた。(10代男性) 3つの棟の造形的関係性!? (60代男性) 東京都内でも農業という発想は良かった。(50代女性) 屋根を耕す場所とする無駄な場所を作らない良い計画(40代男性)

14. 神楽の降下橋

わくわくします。(50代男性) なかなか踏み込みにくいテーマに果敢に取り組んでいるのがすごい! (50代男性) 圧巻、絶対行きたい。(40代女性) 行きたくなる!お神楽も楽し気になる。何処かで見たデザインだけど、実現すると行きたくなるよね。(50代男性) 骨組の合理性の考え方を述べて欲しいと感じました。また、つり下がった部分の水平抵抗はどうか? (→) 地域の伝統を残す視点が良いなと思った。谷に降りられるのは楽しそうだった。(10代男性) 橋と集落、橋詰の関係がよくわからない。模型が力作ですね!(60代男性) まさに二つの地域の架け橋という感じ。(→) 360° webカメラ。(50代男性) 降りた先には何が? (60代男性) 会場が一番目立ちました。(40代男性) 想像力豊かなデザイン(40代男性)

15. 策士切断、拓ク街

切断に伴う開取りの切断構造の切断がどうなるのか気になったが、プレゼンのデザイン性はすばらしい。(50代男性) 面白い、もっと派手に切ってみると楽しいかも。(→) 奥の建物の1階に日光が入らない気がした。中が見えるため、通ったときに興味を持てると思った。(10代男性) 都市と建築の関係性がとても面白い! 提案の建築物の次に建つ数十年後の新築も時間の経緯の中で表現されていたらもっと良かった。デリケートな空間の扱いが好感が持てる。(60代男性) 異なる空間の新たな出会いという感じ。(→) 切断したところは、他の街にない新しいテナントにするの良いと思う。ウラ原みたいになりそう。(50代男性) 街に馴染むような雰囲気づくりが大事であり、その場を壊すことのない建築であった。(10代男性) 各建築物を展示物にするようなデザインがよい(40代男性)

16. 無意識の変化

楽しい。歩き回りたくなる。(50代男性) 屋根の上に居られることなど空間を上手に活用していると思った。真ん中の建物も形が面白いなと思った。(10代男性) 地域でケアする感じが良かった。(→) 防災的にNG。パリアフリーでないのではケアされるが、体はケアされない。(50代男性) テーマがハッキリしている。(10代女性) シンプルそうに見えて細かく考えられているテーマだった。(40代男性)

17. 水紡

木材を意識したところが良かった(60代) 設計と模型がすごい! 超力作!(50代男性) おもしろい。冬はどうなるか? (50代男性) 開けた場所ならではの日当たりを生かさせていいなと思った。川に近いと水害が怖いなと思った。(10代男性) 一番良かった。細かい作業が大変だったと思います。(40代女性) 建物の形と地形をもっと対応させたら、良いと思う。(60代男性) インパクトがすごい。晴れ前提 春秋だけ 夏冬はムリ。(50代男性) Siteごとに目的が違って、とても分かりやすい文章で書かれてお感心した。住んでみたいと思った。(10代男性) 模型も細部まで作っていてインパクトがあった。(10代女性) 木材の影なども相まって非常に綺麗だった。(40代男性)

18. えるば

子どもが行きたくなるのはいい。(50代男性) 屋上にもっと何か欲しい。(50代男性) 親世代や思春期の子のことも考えていて、行きやすそうだったと思った。下のスペースの使い方も面白そうだった。(10代男性) 子ども達は楽しそうな空間。(→) 集まりたいと思えない。ここに来てワクワクしない。(50代男性) この世の中でもこういう場があると、また出来る事が広がるんだらうと思う。(10代女性) 子ども達の想像を豊にするようなデザイン(40代男性)

19. 盛る新橋「郷山」

模型もプレゼンもインパクトがすごい。力作!(50代男性) 盛り場、あおぞら商店、観光地にもなりそう、楽しい。(50代男性) テーマがしっかりしていて、見た目もカッコいいなと思った。もう少し天井が高いと圧迫感がないなと思った。(10代男性) 力強いデザインだと思います。もっとアーキーな方が好き!(60代男性) こんな新橋駅行ってみたい。(→) 新橋感ある!他のSCや森ビル?ヒルズ?にはないデザイン。(50代男性) 常識に囚われない形状で、アイデアがとても独創性があり素晴らしい。(10代男性) 見やすく、伝えたいことがまとめられていた。(10代女性) 単位(空間、構造)のつくり方と関係性 もっとrichなものでありたい。(60代男性) 駅自体に活気を感じます。(40代男性) 陽の光の入り方で様々な良さを与えて良い。(40代男性)

第34回千葉県建築学生賞 建築学生賞 高校生への部

1. 心にゆとりをもたせる公民館

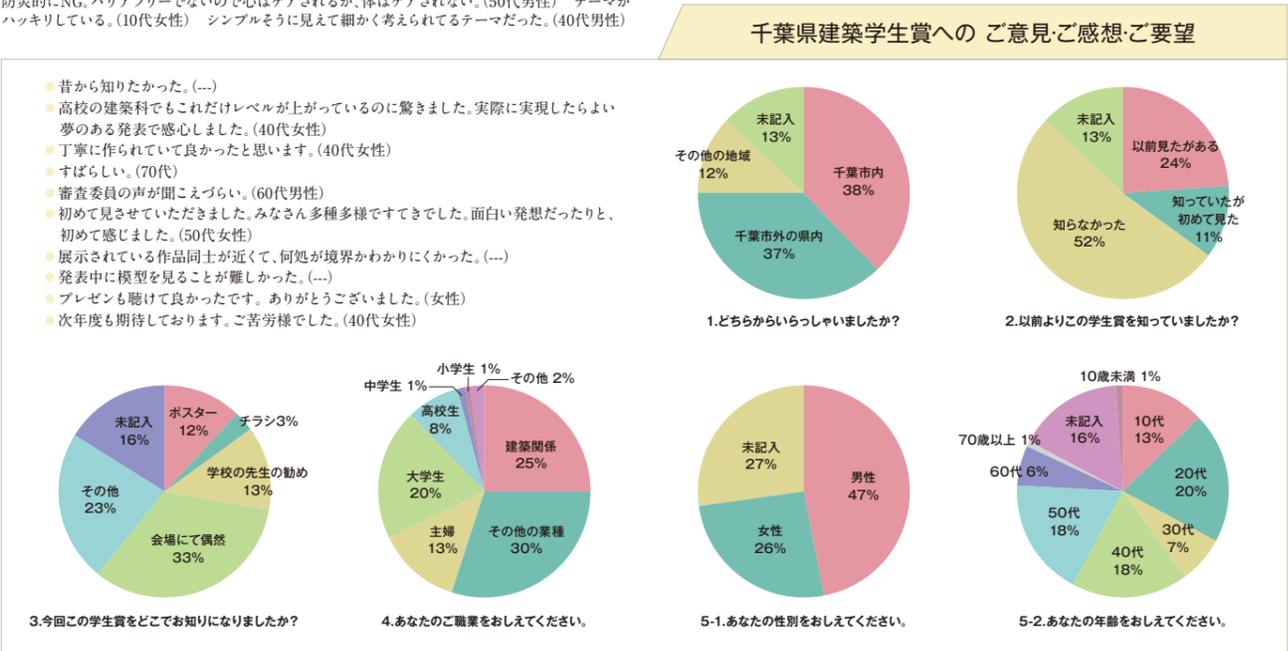
屋上に芝生があるのが良い。日光浴ができる。食堂も欲しいかな。多目的な場所は楽しい。EVは2機欲しい。(50代男性) ただ開けているだけではなく、いづつかにスペースが分かれていて友達とかと行くのも楽しそうだった。高齢者が車椅子で来るときにスロープがあると便利だったと思った。(10代男性) 平面図もとてもよく書けていてすばらしい。(40代女性) 人が集まりそう。避難経路も良い。(50代男性) つながりを感じる公民館で、行ってみたいと思ってしまう。(→) スカイウィンドウの使い勝手の良さに良い計画だと思った。(40代男性)

2. 心を結ぶコミュニケーションセンター

吹き抜け部分があるのが良い。円い窓が面白い。トイレは、更衣室の方にあった方が良い。(50代男性) 空間毎に様々な使い方もあり、同じ興味を持った人と繋げれると思った。一人のスペースの壁を目録し高くすれば、一人の時間をより楽しめると思った。(10代男性) 毎日頑張って作った甲斐がありましたね。(40代女性) 普通だが使いやすそう考えられている。管理事務室の配置とても良い。西日は要検討。(50代男性) 人が楽しく集まりそうな空間ですね。(→) 1階と2階を一つ一つ分けないで一体とさせる計画が良かった。(40代男性)

3. つながり

空間に変化を付けているのが良い!地下空間から上部空間に繋がりがよく考えている。開放的な空間が設計されていて、行きたくなると思う。大階段もいいと思う。若者が座ってしゃべりそう。(50代男性) 3階建て、エスカレーターも欲しいかも。車椅子が通りやすい良いかも。(50代男性) 「心にゆとりをもたせる」とある中で、和室を設けているのがよいと思った。日当たりも屋上に行くための手段としてエレベーターがあると良いなと思った。(10代男性) 正面の丸みのある所がとても良い。(40代女性) ガラス窓が印象に残る。地下の説明があったら良いかも。(50代男性) あたたかさを感じる設計だと思う。(→) コルビュジェを思わせるようなデザインでも見てみたい楽しかった。(40代男性)



2022年 日本建築学会教育賞 受賞

賞の対象:教育貢献

業績名 「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

千葉県建築学生賞協議会

1. 業績説明

(1)教育効果

千葉県建築学生賞(以下「学生賞」)は千葉県内に建築系学科を有する大学各位との意見交換・意識交流を図る場を創出すると同時に、卒業設計に焦点を当て、優秀な作品を表彰することで将来性溢れる学生たちを後押しするという活動を通して、設計業界が広く社会に資することを促進してゆく事を目的に発足した。



1988年に若木滋日本大学教授(現 名誉教授)の働きかけによって、千葉県建築設計監理協会(現 JIA千葉)、千葉県建築士会及び千葉県建築事務所協会の三会により、当時、建築士会が主催していた「建築コンクールちば」の出展作品を主体にして、

千葉県三会による表彰制度の創設が発表された。この三団体と千葉県に建築学科を有する千葉大学、千葉工業大学、東京理科大学、日本大学の4大学2学部(の先生方)によって、連絡協議会が組織され、全国に先駆け1989年に「千葉県建築三会学生賞」として、卒業設計作品の選考会が開催された。

1995年には日本建築学会関東支部千葉支所もこの活動に加わり、「千葉県建築四会学生賞」となり、その後、参加校も増え最大7大学12学科となった。さらには県内の建築系学科を有する専門学校や工業高校の作品展示および表彰を行うなど、建築を学ぶ幅広い世代の生徒・学生の励みとなっている。



千葉県内の建築設計に係わる建築関係団体が、建築家を目指す学生たちにエールを贈ると同じ主旨の下で一つに纏まって運営されるこの協議会の形態は、今日の卒業設計展等が流行る中でも、他に例を見ない活動であるとともに、各会より派遣された委員が協力し話し合い、大学・企業と連携しながら行う活動が長年、続いてきたことも、内外からの纏まりの必要性が叫ばれる建築設計界において、稀有ながら注目すべき実例である。

地域文化の活性化に一層寄与することを目指して、優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生たちにエールを送るとともに、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的として活動してきた千葉県建築学生賞協議会(以下「学生賞協議会」)は30年の長きにわたり学生たちの課題へ挑戦する意欲の向上と創造力の醸成という意味でも、建築教育に貢献している。

そして、独創性に富む建築家の育成につながるこのような取り組みを継続して行うことは建築文化の向上や発展に寄与するものであり、特に地元・地域で活躍しているコミュニティーアーキテクト達による協働作業が、学生賞をステップとして想像力豊かな学生たちが社会へ飛び立ち、将来にわたりまちづくりの一翼を担う次世代の後継者育成の場として、「産」(建築団体)、「官」(県、市町村)、「学」(大学、高校)、「民」の協働による活動は、わが国の建築文化発展に貢献してきた。

(2)教育上の創意工夫

①教育効果を高める公開審査

学生賞による賞の審査は、出展者が設計意図を正確に表現し、審査委員との討議により作品の理解を深めるとともに審査の透明性を高めるために、第21回より公開審査を実施している。審査には主催の4団体から選任された審査委員の他、構造設計の視点からJSCA千葉より、また出展学生に近い立場から第27回の開催時に創立した本賞の歴代出展者の会(通称:なの花会)から選任された審査委員により審査を行っている。

第17回からは市民参加型公開プレゼンテーションを行う審査形式となり、審査過程はすべて非公開ではあったが、学生による公開プレゼンテーション自体が学生同士の学びの場となり、考え方や創造意欲に刺激を与えるものであった。その後の第21回からの公開審査は、学生のプレゼンテーションに加え、入選作品決定に至るまでの全審査過程の全てを公開することにより、教育効果が格段に向上した。審査過程における議論が公開されたことにより、作品のどの点が評価され、マイナス評価がどの部分にあるのかを学生は認識することができ、単に「入賞した」という結果以上に、精魂込めて作り上げた卒業設計作品に詰め込んだ考えや思いが、審査員との議論の中で、作品完成までの過程へのフィードバックとなり、自分自身の作品の理解を深めるといった教育効果を向上させている。

また、第32回、第33回はイタリアの建築家アントニオ・エスポジト氏(ボローニャ大学 教授)を特別審査員に迎え、国際的見解が得られるようになり、審査のグローバル化も図られた。学生は海外の建築家から自分の作品に対して、評価を受けたことにおいても、今後の建築を学ぶ糧とすることができた。

②一般市民による作品評価

学生賞は、第15回から市民アンケートを実施している。これは広く一般市民の方々との交流を図りながら多角的な視点で作品の評価を受ける機会となっており、この点も教育上の工夫といえる。

会場も一般市民の方々が足を運びやすい場所が選定され、学生の出展意欲を高めている。初期はショッピングモール津田沼サンベディック(現 モリシア津田沼)、第15回からは千葉市生涯学習センター、第22回からは千葉市の中心地にあり千葉市の科学館や子ども交流館などの複合施設であるQiball(きぼーる)で開催された。このように、色々な年齢層の一般市民の方々に建築の魅力、学生の活躍を披露する場として配慮されてきた。第30回からはイオンモール幕張新都心グランドモール「イオンホール」に会場が移され、県外からの来客も多い大型商業施設を会場とし、出展する学生たちの制作意欲の向上の一助ともなっている。そして、学習の成果の発信とともに、この活動が契機となって建築を志す多くの若者がいっそうの探究意欲を高める教育活動となる。

また、第21回からは、展示期間中に訪れる大勢の市民からの投票により選ばれる市民賞を企画しており、建築専門家以外の目線での作品評価も行われている。建築の専門家以外からの評価は、ある意味では純粋な作品への称賛が多く、学生たちにとって大きな励みになっている。さらには、その励みが未来の建築家としての意欲にも結び付くこととなる。市民賞も企画することにより、一般市民の方々に建築という専門的な分野を身近に感じてもらえるよい機会になっている。

(3)教育活動を通じた社会への貢献の程度

①継続的な活動の発展を担う出展者の会「なの花会」

学生賞の他に類を見ない活動の一つに出展者の会がある。各年代の受賞者を核に歴代出展者の輪を広げて学生賞の運営に関わることで、従前の「学生たちにエールを送る」という学生賞コンセプトの未来に、立派な社会人に育った過去の学生が今度は自分が学生たちにエールを送る、という循環が継続され「次代を育てつづける」という新たなコンセプトで発足された会である。この会は、大学や世代の枠を超えた人と人の豊かな繋がりを創造し、幅広いメンバーの交流を目的として、学生賞(旧千葉県建築三会/四会学生賞)に出展した学生の同窓会組織で千葉県の県花をモチーフとして「なの花会」と命名し2009年6月に設立された。第21回の千葉県建築学生賞より審査委員の選出や開催ポスターの制作の他「なの花会賞」を選定するなど学生賞の運営に携わっており、学生賞へ出展した学生がその後も、学生賞の活動に携わるという形を見出した。なの花会の活動は、学生賞の企画・運営に留まらず、建築視察報告会や勉強会、メンバーが設計、関係した建築作品の見学会など多岐にわたりメンバー同士の交流を行う会へと成長し、千葉から巣立つ学生にエールを送る活動の一躍を担っている。このような活動は、価値ある人と人との繋がりを育む場となり、今後も建築教育の活動が引き継がれることが期待される。

②学校区分を超えた展示・審査・表彰

学生賞は大学生の卒業設計作品の展示・審査にとどまらず、第11回より県内工業高校の建築設計作品の併設展示を企画し、建築を学ぶ高校生が大学生の作品を見学し、大学生の作品展示や審査会場が、高校生にとっての学びの場となるような仕組みが構成された。その後も工業高校生の作品展示が継続して企画され、第19回には千葉県工業高校生卒業設計コンクールが同時開催され、大学という学校区分を超えて、建築を学ぶ高校生にも教育的視点にたった審査会が行われた。その後、県内にある建築系学科を有する専門学校も加わり、作品展示や卒業設計コンクールが企画・運営され、学生賞の活動目的である「優秀な卒業設計作品を表彰することによって学生たちにエールを送る活動」の輪を広げることとなった。

「千葉県建築学生賞」による建築文化向上への貢献

千葉県建築学生賞協議会 殿

本教育活動は、千葉県内の建築系学科学生の卒業設計を対象にした表彰制度であり、1988年に始まり33年間の歴史を重ねるとともに、常に運営の改善を続けてきた。当初4大学5学科で始まった活動は、今日では6大学10学科が参加するまでとなり、大学生を中心に建築文化の普及・向上に貢献してきた。

1988年10月に日本建築学会大会が千葉県で開催されたことを契機に、千葉県建築設計監理協会(現JIA 千葉)、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会によって、優秀な学生・卒業設計作品に称賛とエールを贈ることを目的に「千葉県建築三会学生賞」が創設され、それが今日、「千葉県内に建築系学科を有する大学各位との意見交換・意識交流を図る場を創出すると同時に、卒業設計にスポットを当て、優秀な作品を表彰することで将来性溢れる学生たちを後押しする」という目的に拡張され、継続して活動が続いている。さらに、歴代出展者による「なの花会」が運営に参画し、協議会の一部となって審査にも参加している。卒業設計等に対して継続的に表彰を続けている活動は全国に見られるが、過去の出展者がボランティアで運営や審査の一部を担っていることは大きな特徴と言える。

2003年からは公開プレゼンテーションを取り入れ、審査はすべて公開されるとともに講評集によって幅広い教育効果が目指され、2004年からは2日間にわたり市民にも展示を公開し、投票を受け付け、

さらには、学生賞の活動に、継続的に工業高校が関わったことにより、学生賞の審査員が千葉県高等学校総合技術コンクール「建築設計部門」の審査員として直接、現役の高校生に建築の設計に関する助言をする機会が設けられるなど、学生賞の活動が幅広く建築教育へ貢献している。その他にも、千葉県建築学生賞に携わる建築士が高校に向向いて、設計業務に関する講話や、自らが設計した作品の見学会を開催するなど、意欲的な教育活動の機会が設けられた。

また、学生賞では、単発的な企画ではあるが、「未来の建築家」と題し、小中学生の絵画を展示するなど、色々な企画を併設し、「建築」に興味を持ってもらうきっかけづくりを試み、市民の方々に建築という専門的な分野を身近に感じられる機会としての工夫が施されたものになっている。

このように、学生賞は大学生のみならず、小中高高校生への建築教育の働きかけをしており、建築の魅力を発信し、建築を学ぼうとする若者の裾野を広げるという意味でも建築教育への貢献であるといえる。

2. 受賞者と業績との関係

明智名誉会長の下で千葉県建築学生賞協議会は、千葉県内の建築設計に係わる4団体(一般社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所、公益社団法人 日本建築家協会千葉地域会、一般社団法人 千葉県建築士会、公益社団法人 千葉県建築士事務所協会)が社会へ巣立つ学生たちにエールを贈ると同じ志のもと、建築設計界が社会に貢献するための下地づくりを目的としてこの学生賞を企画・運営している。この協議会は、主催4団体から出向された委員の他、協力団体・協賛会や高校教員など50名を超える委員によるボランティア運営で、30年の長きにわたって継続できたのは学生賞協議会の多数の委員の尽力によるものである。

学生賞協議会は、学生賞の立ち上げから、長年にわたるその継続と発展を実現し、建築教育と建築文化の向上に大きく貢献したといえる。



2005年からは市民参加型の「市民賞」を創設して、広く展示や審査を公開することで一般社会への建築文化の普及、教育効果の拡大が図られている。現在では千葉県内の建築設計にかかわる4団体(上記団体に日本建築学会関東支部千葉支所が追加)の協力と、これらの団体から派遣される継続的なボランティアメンバー、なの花会、学生ボランティアによって審査・展示会が運営・実施されている。建築家に限らない多彩な特別審査員は漫画家や陶芸家などの多様な評価を審査に導入し、海外からの審査員も迎えることで、参加者の多面的な価値観を育むことに寄与している。

なお、今日では併設イベントとして、小中学生による「未来の建築家コーナー」や、併設展示の工業高校建築科の「建築設計作品展」が開催され、建築文化のすそ野の拡大に貢献していることも評価に値する。このような継続性、運営面の柔軟性、広い世代を対象とした「建築教育」の実践など、総合的に判断して優れたものと評価できる。

よって、ここに日本建築学会教育賞(教育貢献)を贈るものである。

審査員



審査委員長
河原 泰

Yutaka KAWAHARA

1968年生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業、1992年(株)東畑建築事務所入社、1997年(株)三菱UFJリサーチ&コンサルティング出向2002年独立。現在(株)河原泰建築研究室代表取締役。
2009年千葉県建築文化賞(回向院市川) 2016年グッドデザイン賞(両国念仏堂) 2019年千葉県建築文化賞(ハレアカラ)

出向元:(公社)日本建築家協会

建築の未来を切り開く若者らしいアイデアを期待します。



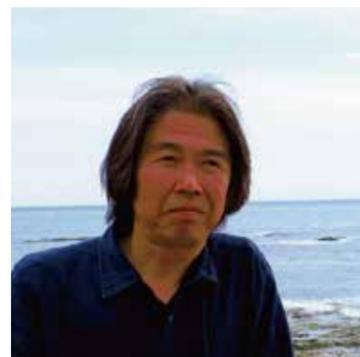
回向院市川別院



回向院両国念仏堂



ハレアカラ



審査副委員長
小島 広行

Hiroyuki KOJIMA

1962年千葉県生まれ。日本大学生産工学部建築工学科卒業、(株)榎本建築設計事務所にて主に公共施設の設計・監理を行う。2004年(株)テ・スタイル建築研究所を設立。住宅、クリニック、店舗、福祉施設等の設計活動を主とする。
・第10回葛賞 金賞 通産大臣賞
・千葉県建築文化賞 6回受賞
・2005年 千葉県優秀建築賞

出向元:(公社)日本建築家協会

ユニークな発想と確固たるコンセプトで感動させて下さい。楽しみにしております。



6Court-House



斜壁の家



CHIBA-Complex



審査委員
河内 一泰

Kazuyasu KOCHI

1973年生まれ。東京藝術大学卒業後、同大学院修了、難波和彦+界工作舎を経て、2003年に河内建築設計事務所 設立。SDレビュー2002 新人賞、AR award 2009入賞(HOUSE kn)、2013年に日本建築学会作品選集新人賞(アマダハウス)、2015年にJIA新人賞(アパートメント・ハウス)、2019年にJIA東海住宅建築賞 優秀賞(タンザクハウス)。2019年から東海大学工学部建築学科の特任准教授。

建築は使われ方が変化しても廃墟になっても形とその空間の質は残ります。みなさんの考えた建築のかたちに出会える事を楽しみにしています。



アパートメント・ハウス(2014.千葉)



タンザクハウス(2018.愛知)



審査委員
関谷 和則

Kazunori SEKIYA

1971年 生まれ。1994年日本大学理工学部海洋建築工学科 卒業、1996年日本大学理工学部大学院 修了、1996年竹中工務店入社。現在、東京本店設計部 設計ISD(6部門)設計2グループ長。
MIYASHITA PARK:GD賞 AIA JAPAN
新宿東宝ビル:BCS賞 GD賞
くらすわ:GD賞 北陸建築文化賞

出向先:(一社)日本建築学会

建築設計を志す皆さんの集大成となる作品を期待いたします。



MIYASHITA PARK



新宿東宝ビル(2015年)BCS賞・GD賞



くらすわ(2010年)GD賞・北陸建築文化賞



審査委員
向後 勝弘

Katsuhiko KOUGO

1953年千葉県生まれ、法政大学大学院修士課程工学研究科建設工学専攻修了、千葉県町村会建築研究所を経て1986年(株)向後構造設計事務所開設し現在に至る。2014年から2018年まで(一社)日本建築構造技術者協会JSCA千葉の代表を務める。
構造設計専門の設計事務所として、建物の耐震改修に数多く関わるとともに、公共建築から個人住宅まで、また、あらゆる構造形式の構造設計を手がけています。

出向元:(一社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉

JSCA千葉賞を設けました。構造デザインにも目を向けてください。



3階床にPC梁を使った重層体育館



研修施設(RC造)



枠付鉄骨ブレー外側補強

熱帯植物園(S造)



審査委員
田邊 曜

Hikalu TANABE

1979年千葉県千葉市生まれ。2002年日本女子大学住居学卒業後、早稲田大学大学院修士課程修了。在学中にRenzo Piano Building Workshopにて研修。2005年伊東豊雄建築設計事務所入所。2013年hklstudio設立。
(2017年田邊曜建築設計事務所に改称)
2015年 千葉都市文化賞(旭町診療所) 2019年 iF Design Award 2019 (TIERS) 2019年 千葉県建築文化賞(旭町診療所)

卒業設計で考えたことは将来、どう建築を考えるかのベースとなる大切な機会です。皆さんの考えた建築のプレゼンテーションを楽しみにしています。



旭町診療所



旭町診療所



TIERS

審査員



審査委員
櫻井 彩
Aya SAKURAI

1991年 千葉県八街市生まれ
2014年 千葉工業大学卒業
2016年 千葉工業大学大学院修了
同年 オンデザイン入社

出向元: なの花会(出展者の会)

この作品を作ろうと思った背景や思いを丁寧に読み取りたい。
はじめるきっかけがどんなに小さくても、最後のアウトプットが少し先の新しさにつながるわくわく感のある提案を期待します!



シェアオフィス・コワーキングスペース
[Innovation Hub Yokohama]



vivistop 柏の葉リニューアルPJ
「子どもたちが更新し続けるものづくり空間」



美容室を改修した暮らし
シェアハウス [MINOYA] **BEYOND ARCHITECTURE**
アウトドメティア
[beyondarchitecture]



コーディネーター
中野 正也
Msasaya NAKANO

1974年 京都府京都市生まれ
1997年 千葉工業大学工学部建築学科卒業
1997年～(株)野生司環境設計
2001年～(株)テネフェス計画研究所 取締役副社長
2001～2014 千葉工業大学工学部

建築都市環境学科非常勤講師

2014年～(株)neuf works(ヌフ・ワークス)設立

2016年～千葉工業大学創造工学部

都市環境工学科非常勤講師

第21・22回 審査員 / 第28回 審査副委員長 /
第29回 審査委員長 / 第30回 会長兼審査委員長

出向元: (一社)日本建築学会関東支部

作品に込められた想いや熱意を汲み取り、審査員の方々に問いかけ、そして審査会でじっくり語り合いたいと思います。
刺激的で夢のあるそんな面白い作品に出会えるのを楽しみにしています。



船橋Sビル



上野Mホテル



船橋M邸

主催者団体

(公社)日本建築家協会 (JIA)
千葉地域会

● Tel : 043-225-7881

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の団体。会員は、日本建築家協会の会員。専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家。

(公社)千葉県建築士事務所協会

● Tel : 043-224-1640

建築士法により開設された建築士事務所等の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業建築設計事務所等。

(一社)千葉県建築士会

● Tel : 043-202-2100

建築士法により設立された一級建築士、二級建築士、木造建築士の団体。会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(一社)日本建築学会関東支部
千葉支所

● Tel : 043-202-2100

建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。全国に9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

協力団体等

(一社)日本建築構造技術者協会
JSCA千葉

● Tel : 043-225-2181

建築構造設計者、構造エンジニアで構成される職能組織。建築構造に関する賞としてJSCA賞、資格としてJSCA構造建築士を主催している。略称はJSCA。

なの花会 千葉県建築学生賞出展者の会
「なの花会」は、これまでの千葉県建築学生賞に出展した OB/OG の同窓会組織として、2009年6月に誕生しました。第一回の出展者から現役の学生まで、出身大学や世代を越えた幅広いメンバー間の、豊かな繋がりや交流を目的とした活動を行っています。

特別審査員

建築の新たな課題

特別審査員コメント

今年も千葉県建築学生賞の海外特別審査員として3度目の審査に加われた事に感謝し、大変うれしく思います。委員の皆様、参加頂いた皆様に心から感謝申し上げます。作品の質の高さ、レベルの高さに驚くと共に、建築家として学生諸君の明るい未来に期待します。頑張ってください!

各作品が取り組む問題は、世界中で建築と都市デザインの規律に影響を与える文化的パラダイムの変化が起こっている兆しを感じます。人間と環境のデリケートな関係に対する大学の教育方針も大きく変化しました。これは、世界大戦後の制御不能な資源の消費現象を緩和する建築を考え始めたという点で良い前兆です。

殆ど全ての作品が、環境災害、気候変動、持続可能性、循環経済、景観など、私の世代が考慮していなかった現代生活のいくつかの重要な側面に向き合い、感覚だけでなく、非常に高いクオリティーの作品を達成しています。彼らは、形態はもとより伝統との微妙なバランスを再発見しようとしています。歴史は、道徳重視の世界感による安定した居場所としてではなく、絶えず変化する(参照の)世界として解釈されています。

幾つかの作品は、乱雑な都市の重要な結節点で 都市景観と改修の問題にアプローチしており、他の幾つかの作品は、地域の持つ固有の伝統文化と精神性を再考する方法を定義しています。

また、異なる視点から生態学的な側面にアプローチする作品として、村を訪れる旅人の為の石と木造の建物、土地固有の屋敷林である「イグネ」を再考、再生する試みや伝統的紙漉きを生かした村、あるいは竹と牡蠣養殖とのエコロジカルな提案は特に印象的でした。

これらの高い思考とデザインを持つ作品群から、数点を選ぶのは困難でした。特別審査員として私は「現代世界の持つ脆弱さに対する意識」と「地域固有の建築様式を巧みに組み合わせる試み」の作品を評価、選択しました。

建築家・ポローニャ大学教授
アントニオ・エスポジト
Arch. Antonio Esposito



特別審査員
Arch. Antonio Esposito

建築家 アントニオ・エスポジト

1961年 ローマ出身
国立ミラノ工科大学 卒業。建築学修士
ポローニャ大学 国立科学員
ART_Arquitectural 科学委員会メンバー
ミラノ マリオ・ベリーニ事務所を経て、ポルト街(ポルトガル)の調査、研究等を行い、ブルースキー・エスポジト事務所設立。ポローニャ大学で教鞭を執りながら現在に至る。
受賞作は、独立200年記念メキシコ・シティ・スクウェア国際コンペ(Bruschi協働)、ウナルキテットゥーラ展覧会 他。
フェルナンド・タヴォラ等 出版、執筆多数。モンテレー(NL、メキシコ)近代的、現代的アイテム会議等を開催。
日本に於ける作品は、横浜ビジネスパーク。(With Studio Mario Bellini)



横浜ビジネスパーク (横浜ビジネスパーク HPより)



Competition for the new Siena stadium.



Row houses in Monopoli



Competition for the south-east coast in Bari



Competition for Libertà sq. in Cesena



Project Financing for the new Monopoli town hall



Free access to the beach and bathing facilities in Monopoli



Plaza Bicentenario in Tlaxcoaque area in Mexico City



Competition for a new square and a new primary school in Bisceglie (Bari)



Competition for the headquarters of the Fundación Arquitectura Contemporánea in Cordoba (Spain)



Competition for Villa della Regina in Turin



Competition This is Tomorrow Fundación Miguel Fisac (Spain)



Competition for the railway areas in Bari

協賛

(一社)日本建築構造技術者協会・JSCA千葉 PAST会 会長 明智克夫	270-0074	船橋市滝台2-1-28薬円台ヒルズ301号(有)佐藤建築構造設計事務所	043-252-6174
(株)鈴木ユニット 総合資格学院	262-0012 273-0005	千葉市花見川区千種町241-11 船橋市本町5-4-2森ビル6階	043-257-5754 047-425-8034
(有)佐藤建基	262-0019	千葉市花見川区朝日ヶ丘4-11-5	090-3202-2780
(有)巴工業	130-0002	東京都墨田区業平1-9-4	03-5608-4582
(株)榎本建築設計事務所	260-0854	千葉市中央区長洲2-8-5	043-227-9345
(株)桑田建築設計事務所	261-0001	千葉市美浜区幸町1-2-2桑田ビル内	043-241-7511
千葉県建設防水工事業(協)	260-0013	千葉市中央区中央4-14-1千葉不動産ビル2階	043-222-4751
(株)千葉県建築住宅センター	260-0013	千葉市中央区中央4-8-5建築会館2F	043-222-0109
(株)レスト	166-0002	東京都杉並区高円寺北2-2-1巴善ビル5階	03-5356-8866
(株)建築資料研究社/日建学院	260-0032	千葉市中央区登戸1-2-20	043-244-0121
日本ファイリング(株)	101-0062	東京都千代田区神田駿河台3-2新お茶ノ水アーバンビル8F	080-7172-5474
児玉コンクリート工業(株)	171-0022	東京都豊島区南池袋1-16-20	03-3971-7195
(有)松原組	344-0022	埼玉県春日部市大畑9日神パレステージ112	048-734-4583
(株)千興商事	264-0003	千葉市若葉区千城台南4-11-15	043-236-3211
(株)スタジオ・チッタ	260-0843	千葉市中央区末広1-2-6	043-223-7676
西松建設(株)	105-6310	東京都港区虎ノ門1-23-1虎ノ門ヒルズ森タワー10階	03-3502-7625
塚本總業(株)	260-0005	千葉市中央区富士見2-3-1	043-227-8527
(株)オカムラ	260-0027	千葉市中央区新田町1-1	043-204-5790
コクヨマーケティング(株)	260-0045	千葉市中央区弁天1-15-1細川ビル4F	043-207-5581
(一社)千葉県建設業協会	260-0024	千葉市中央区中央港1-13-1建設業センター5F	043-246-7624
日軽パネルシステム(株)	260-0028	千葉市中央区新町18-14千葉新町ビル5F	043-302-7177
(株)メント	132-0021	東京都江戸川区中央3-5-5	03-5879-5470
アイカ工業(株)千葉支店	260-0013	千葉市中央区中央1-11-1千葉中央ツインビル1号館8階	043-382-4311
三協立山(株)三協アルミ社千葉事業所	261-0023	千葉市美浜区中瀬1-7-1幕張テクノガーデンB棟20階	043-296-3292
(株)千葉測器	260-8567	千葉市中央区都町2-19-3	043-232-2541
(株)ひらい	299-0111	市原市姉崎736-1	0436-62-2204
日本ERI(株)千葉支店	260-0028	千葉市中央区新町3-13千葉TNビル3F	043-203-8551
(株)日立ビルシステム	260-0031	千葉市中央区新千葉1-4-3WESTRIO千葉オフィス棟6階	043-241-1295
(株)辻板金工業所	263-0002	千葉市稲毛区山王町202-15	043-421-13411
(協)千葉県鐵骨工業会	260-0045	千葉市中央区弁天1-21-3石橋弁天ビル2階	043-247-2631
(株)角藤千葉支店	260-0031	千葉市中央区新千葉2-7-2	043-246-1131
(株)イトーキ	261-7121	千葉市美浜区中瀬2-6-1ワールドビジネスガーデン(マリブイースト)2I階	043-304-5510
立川ブラインド工業(株)千葉支店	260-0044	千葉市中央区松波2-8-1	043-252-2821
TOTO	263-0016	千葉市稲毛区天台1-5-5	0570-023301
東リ(株)	260-0843	千葉市中央区末広4-18-1	043-208-1381
リリカラ(株)	275-0023	千葉市花見川区幕張本郷5-2-11アトレ幕張101	043-382-3375
(株)須藤黒板製作所	132-0035	江戸川区平井7-17-35	03-3617-8701
(株)青井黒板製作所	165-0026	東京都中野区新井1-1-5	03-3387-3330
(株)技研基礎	260-0843	千葉中央区末広5-8-6	043-266-6812
(株)恩田商工	260-0023	千葉市中央区出洲港9-10	043-242-1377
(株)LIXIL	136-8535	東京都江東区大島2-1-1	043-221-2051
前田製管(株)千葉支店	260-0007	千葉市中央区祐光4-7-10	043-287-1211
日章興(株)	263-0043	千葉市稲毛区小仲台6-18-1-406	043-287-1211
日本高圧コンクリート(株)千葉営業所	260-0021	千葉市中央区新宿2-1-20	043-242-4311
文化シャッター(株)	264-0025	千葉市若葉区都賀3-33-23	043-231-2100
(株)がもう設計事務所	274-0815	船橋市西習志野3-26-8ファインコート北習志野2B	047-463-9901
(株)意匠院	260-0027	千葉市中央区新田町12-15 K16 401	043-203-0705
田端建築デザイン事務所	275-0017	船橋市前原西2-4-9	047-472-3027
タニコー(株)	261-0005	千葉市美浜区稲毛海岸2-1-285	043-248-0791
エスケー化研(株)千葉支店	263-0003	千葉市稲毛区小深町122-1	043-304-0411
(株)角井	292-0838	木更津市潮浜1-17-19	0438-37-4121
(株)国際技術コンサルタント	272-0033	市川市市川南1-1-8市川サンハイツ206	047-326-5951
三和シャッター工業(株)	170-0013	東京都豊島区東池袋4-5-2ライズアリーナビル10階	03-4333-0571
(株)ピーエルジー東京支店	101-0032	東京都千代田区岩本町1-4-5NS岩本ビル902号	
(株)鹿島技研	289-1204	山武市戸田227-1	0475-80-8211
田島ルーフィング(株)	260-0032	千葉市中央区登戸1-26-1朝日生命千葉登戸ビル9F	043-244-3711
ユニシ(株)	260-0044	千葉市中央区松波2-13-20オフィス松波	043-305-5970

主催者団体

(公社)日本建築家協会千葉地域会(JIA千葉)

- 建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の個人及び団体。
会員は、専業設計事務所の主宰者、共同者、所員、官公庁、学校等に所属する建築家

(一社)日本建築学会 関東支部・千葉支所

- 建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。
全国9支部36支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

(一社)千葉県建築士会

- 建築士法により設立された1級建築士、2級建築士、木造建築士の団体。
会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建設業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(公社)千葉県建築士事務所協会

- 建築士法により設立された建築士事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業に勤務する地区設計事務所等。

企画・発行 千葉県建築学生賞協議会

■ 会長	飯沼竹一
■ 審査委員長	河原泰
■ 副審査委員長	小島広行
■ 審査委員	関谷和則・向後勝弘・河内一泰・櫻井彩・田邊曜
■ 特別審査委員	Arch. Antonio Esposito [建築家・ボローニャ大学国立科学院 非常勤講師]
■ 審査コーディネーター	中野正也
■ 会場委員会	磯野智由・野村優太・皆川拓・青山貴仁・桑田浩司・岡田修治・田端友康
■ 受入・編集委員会	萩原進・小野真路・小島聡・岡田学・神成健
■ 得点表示委員会	萩原進・小野真路・岡田学・神成健
■ 表彰委員会	鈴木雄介・長谷川舞・牧野嶋彩子・星野治
■ 市民賞委員会	小島聡・鈴木雄介・長谷川舞・牧野嶋彩子・星野治
■ JIA出展委員会	田端友康
■ 広報・ポスター委員会	中野正也・蒲生良隆・古里正
■ イベント委員会	佐久間達也・岡松利彦・佐々木達郎・中野正也・安達文宏
■ 高校委員会	林祐介・鈴木宏太・徳野淳哉・安達文宏
■ 協賛委員会	鈴木周二・鈴木克則・野村優太・山田紀夫・角田雅人・平宅武司・山本聡・岡田修治・長谷川舞・熊井秀樹・平瀬慎一郎・前平晴男・合田武彦・船田潤・川原尚紀・石橋寿夫・武井猛
■ 交流委員会	平宅武司・鈴木克則
■ オープザーバー	寺川典秀・神成健・森田敬介・福田幸則
■ 歴代会長会 (*:執行役員)	明智克夫・清水怡・櫻井修・宇野武夫・佐竹良造・寺川典秀*・加藤文男*・森田敬介*・星野治*・古里正*・大岩義充*・柳田富士男*・安達文宏*・神成健*・中野正也*・田端友康*
■ 事務局	矢内美恵
■ 表紙デザイン	佐藤有希子(東京理科大学大学院 第34回最優秀賞)
■ 編集/デザイン/印刷	株式会社みつわ
■ WEBサイト制作	株式会社みつわ